

教科に関する科目：シラバス

授業科目名： 法学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名：井出 真也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 本講義は、受講生に対して、（１）国内社会及び国際社会において法がどのような役割を果たしているのかにつき理解してもらうこと、及び、（２）思考方法の一つとしての法的思考に慣れ親しんでもらうことを目標とする。			
授業の概要 国内社会においても国際社会においても、法は人間の日常生活および国家の活動に密接に結びついている。本講義では、国内社会および国際社会において法がどのように制定され、作用しているのかにつき検討を加える。さまざまな紛争を解決する一手段としての法の意義と限界に注意を払いつつも、国内法および国際法が、われわれの日常生活と結びついた存在であるということを理解してもらえれば幸いである。			
授業計画 第１回：イントロダクション（日本の国内法、憲法、民法、刑法、諸法など） 第２回：三権分立（１）（国会の機能・役割など） 第３回：三権分立（２）（内閣の機能・役割、裁判所の機能・役割など） 第４回：日本国憲法の歴史（憲法成立史、大日本帝国憲法など） 第５回：日本国憲法と人権規定（人権規定の誕生、自由権、社会権など） 第６回：家族生活と法（１）（婚姻制度、婚姻の法的仕組など） 第７回：家族生活と法（２）（夫婦別姓、男女雇用機会均等法など） 第８回：家族生活と法（３）（離婚制度、離婚の法的仕組など） 第９回：家族生活と法（４）（有責配偶者問題、親権など） 第１０回：家族生活と法（５）（ドメスティックバイオレンス、ストーカーなど） 第１１回：社会保障と法（１）（生存権、日本の社会保障の方向性など） 第１２回：社会保障と法（２）（児童虐待防止法、高齢者虐待防止法など） 第１３回：社会保障と法（３）（健康保険法、介護保険法など） 第１４回：前期講義のまとめ（１）（三権分立の機能・役割、日本国憲法の人権保障など） 第１５回：前期講義のまとめ（２）（婚姻・離婚と関連法の整理、社会保障のあり方など） 第１６回：後期イントロダクション（国際法の基礎、主権平等など） 第１７回：国際人権法（１）（国際人権の概念とその誕生、マグナ・カルタなど） 第１８回：国際人権法（２）（アメリカ独立宣言、フランス人権宣言など） 第１９回：国際人権法（３）（国際連盟、国際人権概念の発展・展開など） 第２０回：国際人権法（４）（自由権規約、社会権規約など） 第２１回：国際テロリズムと法（１）（テロリズムの定義、９・１１テロなど） 第２２回：国際テロリズムと法（２）（国際連合・EU・アメリカにおけるテロ対策、テロ対策特措法） 第２３回：環境と貿易（１）（WTO、オゾン層保護など） 第２４回：環境と貿易（２）（条約の矛盾、レジームの対立など） 第２５回：国家領域と法（１）（領域の定義、領域の取得方法など）			

教科に関する科目：シラバス

第26回：国家領域と法（2）（南極、宇宙空間など） 第27回：国家領域と法（3）（領空法、海洋法など） 第28回：国家領域と法（4）（北方領土問題、竹島問題、尖閣諸島問題など） 第29回：後期講義のまとめ（1）（女子差別撤廃条約、子どもの権利条約など） 第30回：後期講義のまとめ（2）（世界の領域紛争、共同開発区域など） 定期試験
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 『法学入門』（五十嵐清、一粒社） 『国際法（Sシリーズ）』（松井芳郎 他、有斐閣）
学生に対する評価 定期試験（100%）

教科に関する科目：シラバス

授業科目名： 政治学原理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4 単位	担当教員名：栗本 裕見 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教科に関する専門的事項「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 ・政治についての関心を高めるとともに、政治学についての知識を身につける。 ・戦後日本政治の特徴と、現在直面している変化の動向を理解する。			
授業の概要 経済状況の流動化、少子化・高齢化のなかで、税金や社会保障制度、経済政策など、政治が適切に資源を配分し、社会の進むべき方向性を打ち出すことがますます期待されるようになっている。だが、その一方で政策決定のスピードや透明度、政策実施の効率性など様々な面で日本の政治のありようは批判を浴びている。日本の政治の特徴とは一体なんであろうか。この授業では、現実起こっているさまざまな政治現象を題材に、政治学がそれをどう理解してきたか、そして日本の政治や社会とはどのようなものかについて考えてみたい。 授業では、政治現象をとらえるための理論や新しい用語をいろいろと紹介する。これらの理論や概念は、それ自体ではあるべき政治の姿や具体的な政治選択の方向性を導くものではないが、政治との自分なりの距離感をつかむためのツールとしての意義を持つものである。 なお、国際政治については後期に扱う予定である。			
授業計画 第1回：導入：政治にどの程度関心を持っていますか？（政治的無関心） 第2回：権力とは何か（紛争、権力） 第3回：資源配分と政治（市場の失敗、政府の失敗） 第4回：政治と団体（利益集団、潜在的利益集団） 第5回：投票行動（政党帰属意識、業績投票） 第6回：政治家を考える（政治資金、後援会） 第7回：選挙制度と日本の政治（小選挙区制、比例代表制） 第8回：政党と政党システム（政党の機能、政党システム） 第9回：日本の政党・政党システム（包括政党） 第10回：議会（立法過程、粘着性論） 第11回：二院制を考える（ねじれ国会） 第12回：政策過程（政策決定のモデル、課題設定） 第13回：内閣（議院内閣制、大統領制） 第14回：政治主導を考える（政官関係） 第15回：官僚制（官僚優位論） 第16回：メディアと政治（マス・メディア、ポピュリズム） 第17回：行政改革（行政改革の歴史、NPM） 第18回：福祉国家の成立（社会保障制度、福祉国家） 第19回：福祉国家の揺らぎ（福祉レジーム）			

教科に関する科目：シラバス

第20回：中央地方関係（集権・融合型地方自治）
 第21回：地方自治の課題（地方財政、地方分権改革）
 第22回：国際政治の特質（国民国家システム）
 第23回：内政と外交（二層ゲーム）
 第24回：安全保障問題（集団安全保障、国家安全保障）
 第25回：国際政治経済と日本（IMF体制、TPP、FTA）
 第26回：グローバル化と人の移動（外国人労働者、多文化共生）
 第27回：ナショナリズムを考える（ナショナリズム、領土問題）
 第28回：地球環境問題（地球環境レジーム）
 第29回：改めて民主主義を考える（民主主義、新自由主義）
 第30回：まとめ
 定期試験

テキスト

『政治学』（川出良枝・谷口将紀編、東京大学出版会）

参考書・参考資料等

『現代政治学(第4版)』（加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦、有斐閣）
 『はじめて出会う政治学（第3版）』（北山俊哉・久米郁男・真淵勝、有斐閣）
 『代議制民主主義 - 「民意」と「政治家」を問い直す』（侍鳥聡史、中央公論新社）

学生に対する評価

定期試験（50%）、小テスト（20%）、レポート（30%）

教科に関する科目：シラバス

授業科目名： 社会学概説	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4 単位	担当教員名：山本 哲司 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標			
現代社会を考察する社会学的思考を学び、現代社会のありようと私たちの暮らしの意味について考え、講義参加者たちが自らの生活とそれを取りまく大きな社会との結びつきについて考察する視点を養う。			
授業の概要			
本講義の前半において、現代社会分析の学としての社会学の基礎概念・思考法を学ぶ。後半では、人の一生の社会的経験について、社会学がどのように解釈や分析を行うのか、社会学的実践の研究事例の紹介を行う。出産と誕生、子どもの社会化、さまざまな教育現象、親子関係、男と女、家族、労働、地域社会、情報環境、差別、保健医療など人間の成長や社会問題のトピックスを取りあげる。			
授業計画			
第1回：ガイダンスー社会学のイメージー			
第2回：社会学の考え方ー価値と規範ー			
第3回：社会学の誕生ー近代社会の成立と社会学ー			
第4回：現代社会学の原点ーM. ウェーバーの社会学ー			
第5回：現代社会学の原点ーE. デュルケームの社会学ー			
第6回：システムとしての社会			
第7回：大衆社会・消費社会			
第8回：ドラマとしての社会			
第9回：近代的自我と市民			
第10回：人の誕生と社会			
第11回：子どもの社会化			
第12回：家族研究の課題			
第13回：家族（1）親子関係の異文化比較			
第14回：家族（2）「日本的親子関係」の特質「家」としての家族			
第15回：家族（3）親子関係の社会変動			
第16回：家族（4）家族の近代化とエロス			
第17回：家族（5）晩婚化・未婚化・小子化現象			
第18回：家族（6）恋愛と結婚			
第19回：家族（7）性別役割と男女の共生			
第20回：地域生活の変容			
第21回：青年期の課題と社会環境			
第22回：教育と近代社会			
第23回：教育（1）ヨーロッパの教育と社会			
第24回：教育（2）近代教育の実験			

教科に関する科目：シラバス

第25回：教育（3）日本の前近代と教育
 第26回：教育（4）日本の近代と教育
 第27回：教育（5）近代の教育と民衆文化
 第28回：メディアの普及と社会環境
 第29回：人生の語りと社会学
 第30回：社会と人間
 定期試験は実施しない

テキスト

適宜、社会学のテキストを紹介する。

参考書・参考資料等

『命題コレクション社会学』（作田啓一・井上俊編、ちくま学芸文庫）

『社会学の力：最重要概念・命題集』（友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編、有斐閣）

参考文献について、授業時に適宜紹介を行う。

学生に対する評価

平常点（授業時間内・外の確認課題、提出課題）（70%）

その他（長期休暇中に提示する社会の実態を調べる課題）（30%）

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：兵庫 一也
経済原論	選択科目	4 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教科に関する専門的事項「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標			
1．経済学の基礎知識を習得する。			
2．経済学的思考を身につける。			
3．経済学を使って現実経済を理解できるようになる。			
授業の概要			
経済学は、ミクロ経済学とマクロ経済学から成り立ちます。ミクロ経済学は、人々や企業の行動が合わさって、どのように経済が成立するか見ていきます。人や企業といったミクロの存在を分析して、市場で経済取引がどのように行われるかを分析します。一方、マクロ経済学は、一国経済全体がどのように動くかを考えます。経済をマクロ的にとらえて、ある国の経済の景気や成長などを考察していきます。講義では、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎知識を一通り扱い、経済学の基礎を全体的に学んでいきます。			
授業計画			
第1回：経済学への出発（1）経済、経済学とは〈経国済民、オイコノミー、資源配分〉			
第2回：経済学への出発（2）経済学・思想の流れ〈スミス、マルクス、ケインズ〉			
第3回：経済学への出発（3）経済の基本概念・分析方法〈財とサービス、経済主体、マクロとミクロ、フローとストック、名目と実質、短期と長期〉			
第4回：GDPと経済成長（1）国民所得・GDPの概念、国際比較〈国民経済計算、名目GDPと実質GDP〉			
第5回：GDPと経済成長（2）三面等価・成長会計・成長率寄与度〈経済成長率、GDPデフレーター〉			
第6回：市場と価格（1）需要・供給分析 〈需要・供給曲線、均衡点、曲線のシフト〉			
第7回：市場と価格（2）新古典派モデルとケインズモデル〈超過供給・超過需要、有効需要の原理〉			
第8回：市場と価格（3）価格弾力性 〈豊作貧乏〉			
第9回：市場構造－完全競争・不完全競争〈寡占、独占、生産集中度〉			
第10回：物価とデフレ・インフレ（1）物価と価格、物価変動の特徴〈卸売物価、消費者物価〉			
第11回：物価とデフレ・インフレ（2）デフレ・インフレ・スタグフレーション〈フィリップス曲線、デフレスパイラル〉			
第12回：景気変動・景気循環－景気様相・景気循環の特性、景気循環の理論〈景気動向指数〉			

- 第13回：国際通貨と為替（1）国際通貨と戦後、固定相場から変動相場へ〈ブレトンウッズ体制、ニクソンショック〉
- 第14回：国際通貨と為替（2）為替レートの決定メカニズム、円高と円安〈購買力平価説、資産選択説〉
- 第15回：国際通貨と為替（3）国際競争力、各国のGDP〈MER、PPP、GDP比較〉
- 第16回：消費の理論（1）ケインズ消費関数、限界消費性向、限界効用〈45度線モデル、総効用と限界効用、稀少性〉
- 第17回：消費の理論（2）限界効用の逓減、限界効用の均導、限界代替率の逓減〈限界効用表、限界代替率〉
- 第18回：消費の理論（3）序数的効用、財の無差別な組合せ、予算制約〈無差別曲線、予算制約線〉
- 第19回：企業の理論（1）企業と労働市場、賃金決定、労働調整〈完全失業率、労働分配率〉
- 第20回：企業の理論（2）企業の行動・利潤極大化、生産関数・費用関数、最適生産量〈固定費用・変動費用、損益分岐点〉
- 第21回：財政の理論（1）財政システム、財政政策、公共投資と乗数効果〈投資乗数、大きな政府・小さな政府〉
- 第22回：財政の理論（2）公債とマクロ経済、財政赤字の国際基準、国際比較〈プライマリーバランス、潜在的国民負担率〉
- 第23回：財政の理論（3）IS-LM曲線と財政政策、財政硬直化、デフォルト〈クラウディング・アウト〉
- 第24回：金融の理論（1）金融システム、マネーの機能、マネーの定義〈兌換紙幣・不換紙幣、流動性〉
- 第25回：金融の理論（2）金融機関の種類、金融機関の機能、間接金融と直接金融、金融の自由化、銀行の再編〈ハイパワード・マネー、信用創造、金融ビッグバン〉
- 第26回：金融の理論（3）金融政策の目的と手段、マネーサプライ管理政策、セーフティネット〈資金循環、マーシャルのK〉
- 第27回：国際経済の理論（1）国際収支の概念、日本の市場・貿易構造、日米貿易・日中貿易、Jカーブ効果〈外貨準備、直接投資〉
- 第28回：国際経済の理論（2）比較生産費説、直接分業と水平分業〈IMF、WTO、EU、FTA〉
- 第29回：国際経済の理論（3）世界経済システム、国際経済機関、地域提携の展開〈IMF、WTO、FTA、TPP〉
- 第30回：戦後の日本経済・現代経済の諸問題〈現代経済学〉
- 定期試験

テキスト

『1からの経済学』（中村 武・中村 保、碩学舎）

参考書・参考資料等

講義時に紹介する

学生に対する評価

定期試験（100%）

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：小林 徹
哲学概論	選択科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
哲学の中心的问题である「真理」について、「虚構」という切り口で議論することにより、 哲学的思考の在り方についての理解を深めます。			
授業の概要			
哲学は何よりも「真理」を語ることを目指します。一方で芸術は「虚構」を制作して人々を 楽しませることだと考えられています。しかし、芸術は単なる「虚構」ではなく、人々を物事 の深層（「真理」）に触れさせるものではないのでしょうか。また、哲学が言語を通じて「真理 」を語るとき、そこにはつねに「虚構」が混じり込んでいるのではないのでしょうか。 本講義では、芸術に関する伝統的な議論を振り返り、哲学にとって「虚構」とは何か、「真 理」とは何かという問題にアプローチします。			
授業計画			
第1回：導入。虚構について			
第2回：プラトンの芸術論（プラトン、プロティノス）			
第3回：近代の芸術論（パノフスキー）			
第4回：アリストテレスの芸術論①（アリストテレス）			
第5回：アリストテレスの芸術論②（アウグスティヌス）			
第6回：近代の芸術論①（ライプニッツ）			
第7回：近代の芸術論②（バウムガルテン、E・バーク）			
第8回：現代芸術の問い			
第9回：近代の芸術論：技巧と自然①（カント）			
第10回：近代の芸術論：技巧と自然②（シェリング、シラー）			
第11回：近代の芸術論：体系と断片（シュレーゲル、ニーチェ）			
第12回：現代の芸術論：芸術の終焉（ヘーゲル、ダントー）			
第13回：現代の芸術論：終焉以後の芸術①（ハイデガー）			
第14回：現代の芸術論：終焉以後の芸術②（メルロ ポンティ、ドゥルーズ）			
第15回：レポートとまとめ			
定期試験は実施しない			
テキスト			
毎授業にてプリントを配付			
参考書・参考資料等			

授業で適宜紹介
学生に対する評価
平常点（ミニレポート、アンケート）（40%）
学期末レポート（60%）

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：山口 雅広
倫理学概論	選択科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 西洋の主要な倫理学説を正しく理解し、説明できるようになることを目指す。			
(2) 以上のような倫理学説を用いて、倫理学的諸問題の是非を筋道立てて検討できるようになることを目指す。			
授業の概要			
倫理学、すなわち人間の生き方をめぐる哲学的考察は、これまでも哲学における最重要な分野のひとつである。こんにちでは科学技術の発展や社会構造の複雑化とともに、その重要度はさらに増している。本講義では、定評のある教科書（『倫理学の話』、品川哲彦、ナカニシヤ出版）を使用して、倫理学の中心的諸問題および諸理論（社会契約論、義務論、功利主義ほか）を広く学ぶとともに、健全な批判的思考力を養う。			
授業計画			
第1回：イントロダクション（授業の進め方、扱うテーマ、履修上の注意点など）			
第2回：社会契約説（1）：ホッブズ			
第3回：社会契約説（2）：ロック			
第4回：社会契約説批判：ヒューム			
第5回：社会契約説（3）：ルソー			
第6回：義務論：カント			
第7回：功利主義（1）：ベントム			
第8回：功利主義（2）：J・S・ミル			
第9回：功利主義批判：ヘア			
第10回：ロールズの正義論			
第11回：サンデルによるロールズ批判			
第12回：テイラーのコミュニタリアニズム			
第13回：徳倫理学			
第14回：食の倫理			
第15回：振り返りと補足			
定期試験は実施しない			
テキスト			
『倫理学の話』（品川哲彦、ナカニシヤ出版）			
参考書・参考資料等			

『入門 医療倫理Ⅰ 改定版』（赤林朗編、勁草書房）

『英米哲学史講義』（一ノ瀬正樹、筑摩書房）

『倫理学入門』（宇都宮芳明、筑摩書房）

『現代倫理学基本論文集Ⅰ』（大庭健編、古田徹也監訳、勁草書房） ほか

学生に対する評価

小テスト（100％）

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：谷口 静浩
宗教学概説 A	選択科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
人類において宗教がどのように始まったかを解明する。			
授業の概要			
人類は古くから目に見える世界の背後に何らかの畏怖すべき力を感じ、それを神と名づけてきた。そして、ユダヤ教やキリスト教の成立とともに、その神学を基礎づける営みが展開された。しかし、宗教そのものの本質を探る試みは、近代の学問において始まったと言える。 本講義ではまず、西洋近代における宗教の本質を探る試みを概観していきたい。そこではキリスト教を基軸にしつつも仏教などの思想も取り入れた本質追究がなされている。つぎに、宗教の本質に関わる神話を追及した欧米の学説を紹介したい。その後、日本宗教史においてその本質を追究したい。このような仕方では宗教とは何かを考えていきたい。			
授業計画			
第1回：宗教とは			
第2回：人類の始まり			
第3回：宗教の始まり			
第4回：言語・文字の始まり			
第5回：神話的思考			
第6回：メソポタミアの宗教			
第7回：エジプトの宗教			
第8回：ペルシアの宗教 —— 開祖ザラスシュトラ			
第9回：ペルシアの宗教 —— 聖典『アヴェスター』			
第10回：インドの宗教 —— 『リグ・ヴェーダ』			
第11回：インドの宗教 —— ウパニシャッド			
第12回：ギリシアの宗教 —— オリュンポスの神々			
第13回：ギリシアの宗教 —— 密儀宗教			
第14回：ユダヤ教			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
『諸宗教の歩み』（谷口静浩、晃洋書房、ISBN:9784771035270）			
参考書・参考資料等			

『サピエンス全史』（ユヴァル・ノア・ハラリ、河出書房新社、ISBN:9784309226712032）

『多神教と一神教』（本村凌二、岩波新書、ISBN:4004309670）

『宗教学入門』（脇本平也、講談社学術文庫、ISBN:9784061592940）

学生に対する評価

定期試験（90％）、小テスト（10％）

授業科目名： 宗教学概説 B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：谷口 静浩 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 仏教を中心に日本の宗教の歴史をたどっていく。			
授業の概要 仏教思想は日本人の精神生活の根底となってきた。本講義では、日本の宗教の歴史をできるだけ詳しくたどっていききたい。まず仏教思想の基本を押さえ、その後に神祇信仰から始まった日本に仏教などが伝来し、その仏教が神仏習合を交えながら展開していく様子を探っていききたい。神仏習合を通して神道思想が整えられ、その神道と仏教とに儒教が加わった形で近代の日本の宗教が歩みを続けた。 このような日本の宗教の歩みをできるだけ詳しくたどっていききたい。			
授業計画 第1回：日本人の心の歴史 第2回：仏教の思想 第3回：神祇信仰の始まり 第4回：仏教などの伝来 第5回：仏教の展開 ―― ブッダ 第6回：仏教の展開 ―― 初期仏教 第7回：仏教の展開 ―― 大乘仏教 第8回：仏教の展開 ―― 唯識思想 第9回：神仏習合の展開 ―― 神変思想 第10回：神仏習合の展開 ―― 八幡神 第11回：神仏習合の展開 ―― 陰陽道 第12回：神仏習合の展開 ―― 御霊信仰 第13回：神仏習合の展開 ―― 修験道 第14回：近世以降の日本の宗教 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 『諸宗教の歩み』（谷口静浩、晃洋書房、ISBN:9784771035270）			
参考書・参考資料等 『日本宗教史』（末木文美士、岩波新書、ISBN:4004310032）			

『仏教入門』（三枝充恵、岩波新書、ISBN:4004301033）
学生に対する評価 定期試験（90％）、小テスト（10％）

授業科目名： 心理学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊東 秀章 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 広範な心理学の全体像をつかみ、各分野の基礎的な部分について理解し、それぞれが自ら学習できるようになること。			
授業の概要 心理学の歴史と成り立ちについて学び、体系的に学ぶ。また、人の心の基本的な仕組みおよび働きについて概説できるようになる。特に基礎心理である、認知心理学・教育心理学・社会心理学を中心に、学習を深める。心理学の基礎を成す、動物実験などの研究を踏まえて、現代心理学がどのような科学観によって成立しているのかを学び、人を対象とした心理学の実験から応用的な考え方を養う。また、資料や動画などを用いて、机上の学問ではなく、自分自身や生活に根付いた学問であることを学ぶ。			
授業計画 第1回：心理学とは (実験心理学、教育心理学、社会心理学、認知心理学、発達心理学、臨床心理学、心理学究法) 第2回：心理学の成り立ち (ウェルホルム・ヴント、1879年) 第3回：実験・教育心理学① (動機付け、生理的動機、達成動機、親和動機、外発的動機付け、内発的動機付け) 第4回：実験・教育心理学② (学習理論、S-R理論、レスポナント条件付け、オペラント条件付け) 第5回：実験・教育心理学③ (記憶モデル、集中学習・分散学習、命題) 第6回：実験・教育心理学④ (プライミング効果 素朴理論、ヒューリスティックス、機能的固着、アルゴリズム) 第7回：社会心理学① (社会的促進、社会的抑制、社会的手抜き、リンゲルマン効果、電気ショック実験、監獄実験) 第8回：社会心理学② (つりばし効果、初頭効果、親近効果、単純接触効果、ハロー効果、類似性、ゲインーロス効果) 第9回：社会心理学③ (同調行動、傍観者効果、アクティブマイノリティ、援助行動のモデリング、			

リーダーシップ理論、コミュニケーションネットワークPM理論、SL理論)	
第10回：社会心理学④	(認知的不協和理論、過正当化効果、バランス理論、説得、信憑性、スリーパー効果)
第11回：認知心理学①	(知覚、感覚、錯視、視覚、ポップアウト、刺激閾、刺激頂、弁別閾、ミュラーリヤーの錯視、チェンジ・ブラインドネス)
第12回：認知心理学②	(パターン認識、文脈効果、注意、心的回転、図と地、選択的聴取、カクテルパーティ効果)
第13回：認知心理学③	(直列・並列処理、思考、問題解決、推論、ルーチン的問題解決、創造的問題解決)
第14回：認知心理学④	(ウェイソンの4枚カード問題、ギャンブラーの誤り)
第15回：人の心の基本的な仕組み及び働き	
定期試験	
テキスト	特になし
参考書・参考資料等	『はじめて出会う心理学（改訂版）』（長谷川寿一、有斐閣アルマ） 『絶対役立つ教養の心理学』（藤田哲也、ミネルヴァ書房） 『最新・マインドサイエンス』（渡辺恒夫編著、八千代出版） 『新・くらしの社会心理学』（小川一夫、福村出版）
学生に対する評価	平常点（16%）、小テスト（17%）、定期試験（67%）

授業科目名： 発達心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：堀内 詩子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 人の発達段階ごとに、どのような発達の特長や課題があるかを知り、具体的に説明できる。 2. 生涯発達の観点から人間の成長をとらえ、個々に起こっている事象を発達の課題と関連してとらえることができる。 3. 非定型の発達について知り、具体的な支援方法と個々の発達特性を結びつけることができる。			
授業の概要			
本授業では発達を生涯続くものとして捉え生涯発達を軸に扱っていく。その方法として、基礎的な理論の概要を把握した上で、発達を認知機能の発達と感情と社会性に関する発達の2つの側面で再考する。エリクソンの理論を軸に乳幼児期、児童期に加えて、青年期、中年期、老年期までの生涯を通した発達（発達課題）を扱い、学習障害や発達障害など非定型の発達についても触れる。また臨床心理学との繋がりから、自己の発達、他者との関係の発達についても理解をし、人を支援していくために、発達という観点から人を見立てていくための必要な知識の習得を目指す。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 発達心理学とは 第2回：胎児期の発達（誕生までの環境と発達） 第3回：乳児の発達（感覚の発達） 第4回：幼児の発達Ⅰ（他者との関係性の発達） 第5回：幼児の発達Ⅱ（遊びの発達・生活自律） 第6回：児童期の発達（勤勉性と劣等感） 第7回：青年期の発達Ⅰ（心理的離乳） 第8回：青年期の発達Ⅱ（アイデンティティの課題） 第9回：成人期の発達Ⅰ（職業選択と養育者としての発達） 第10回：成人期の発達Ⅱ（中年期の危機） 第11回：老年期の発達（心理的身体的変化と統合に向けて） 第12回：発達障害の支援（アセスメント） 第13回：発達障害の支援（支援の実際） 第14回：「自我の成長」の観点から発達を考える 第15回：発達心理学の活用 まとめ			

定期試験
テキスト 『教育職・心理職のための発達心理学』（中道圭人・小川翔太編、ナカニシヤ出版、2021年）
参考書・参考資料等 授業中に別途指示する
学生に対する評価 平常点（コメントカード・ミニレポート）（50%） 定期試験（50%）

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：田中 智之
臨床心理学概論	必修科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
臨床心理士の専門業務である、臨床心理査定、臨床心理面接、臨床心理的地域援助、研究・調査の基礎について学び理解すること。また、公認心理士の保健医療、福祉、教育その他の分野において専門的知識及び技術を行行使することができるよう、臨床心理学の全体像が掴め、臨床心理学の代表的な理論に基づき、人の心の基本的仕組みや働きについて概説できるようになることを目標とする。			
授業の概要			
臨床心理学は対人援助を目的とした実践的な学問である。公認心理師および臨床心理士の専門業務としては、保健医療、福祉、教育その他の分野において専門的知識及び技術をもち、様々な援助と情報提供などを行うものである。臨床心理学の基礎には様々な考え方がある。臨床心理学の成り立ちについて概説するとともに、臨床心理学の代表的な理論をはじめ、それぞれの領域における基本的な概要の説明を行い、臨床心理学の全体像を理解することができるよう講義を進める。			
授業計画			
第1回：臨床心理学とは（オリエンテーション、臨床心理学の成り立ち）			
第2回：臨床心理学の歴史（臨床心理学史）			
第3回：臨床心理学の基礎理論1（学習理論、条件付け理論）			
第4回：臨床心理学の基礎理論2（深層心理学理論、精神分析理論）			
第5回：臨床心理査定1（臨床心理査定の意味、臨床心理査定の利用）			
第6回：臨床心理査定2（知能検査、質問紙法、投影法）			
第7回：臨床心理面接1（精神分析療法）			
第8回：臨床心理面接2（クライエント中心療法）			
第9回：臨床心理面接3（認知行動療法、認知療法、行動療法）			
第10回：臨床心理面接4（家族療法）			
第11回：臨床心理の実践1（司法領域、産業臨床）			
第12回：臨床心理の実践2（医療、教育、福祉）			
第13回：臨床心理的地域援助1（学校と地域、協働、コミュニティ）			
第14回：臨床心理的地域援助2（子育て支援、育児不安、家族）			
第15回：臨床心理研究法（事例研究、実践型研究、調事例研究、質的研究）			
定期試験			

テキスト
『対人援助における臨床心理学入門』（吉川悟編著、ミネルヴァ書房）
参考書・参考資料等
『心理臨床学事典』（日本心理臨床学会編、丸善出版） （その他、必要に応じ、随時紹介する。）
学生に対する評価
定期試験（50％）、レポート（30％）、平常点（20％）

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：田中 智之
心理学的支援法	必修科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
本講義は、次の 3 点を目標とする。			
①様々な困難に直面している人を理解し、援助関係を結んでいく力を形成する。			
②心理学的支援法を学ぶ。			
③代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界について学ぶ。			
授業の概要			
臨床心理学を基盤とした心理学的支援法である心理臨床行為の概要（心理面接・心理アセスメント・コミュニティアプローチ・研究）を理解したうえで、カウンセリングの歴史から代表的な心理療法について、要支援者の関係者を含む地域支援の意義、心理臨床行為の前提としてのコミュニケーション方法と倫理的配慮、心の健康教育について学ぶ。			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション			
第 2 回：代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界① （精神分析療法・力動的心理療法）			
第 3 回：代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界② （行動療法・認知行動療法）			
第 4 回：代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界③ （パーソンセンタード・アプローチ）			
第 5 回：代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界④ （実存的心理療法）			
第 6 回：代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界⑤ （家族療法）			
第 7 回：代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界⑥ （遊戯療法）			
第 8 回：代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界⑦ （グループアプローチ）			
第 9 回：代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界⑧ （コミュニティアプローチ）			
第 1 0 回：代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界⑨ （ストレスとこころの健康への支援法）			

第11回：訪問による支援や地域支援の意義

第12回：良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法

第13回：プライバシーへの配慮

第14回：心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援

第15回：まとめ

定期試験は実施しない

テキスト

毎講義時にレジメを配付

参考書・参考資料等

『面接の技法』（大段智亮、メヂカルフレンド社）

『はじめのカウンセリング入門（上）』（諸富祥彦、誠信書房）

『はじめてのカウンセリング入門（下）』（諸富祥彦、誠信書房）

『新しいカウンセリングの技法』（諸富祥彦、誠信書房）

学生に対する評価

レポート（25%）、小テスト（25%）、平常点（50%）

授業科目名： 生涯発達と関係支援	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：赤津 玲子 内田 利広 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区 分又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 人の生涯にわたる発達段階において、どのような心の状態にあり、どのような問題が起こりうるかを理解し、その支援のための関り方や関係機関について、説明できること。			
授業の概要 本講義では、対人援助の方法論を大きく2つに分けて捉え、その両方の立場や方法について講義によって理解を深める。 前半は、家族療法の認識論として発展したシステム論にもとづくシステムズアプローチは、個人の心ではなく、人間関係とその状況にアプローチする関係支援の理論である。その背景となる家族療法の諸理論について説明しシステム論について学び、不登校やひきこもりで本人が来談できない関係者支援の方法と実際について理解を促す。 後半は、対人援助の対象となるのは、様々な悩みや不安を抱えたクライアントであるが、その悩みや不安は人間の発達段階におけるあらゆる時期で起こる可能性がある。本講義の前半では、そのような人間の一生にわたる発達段階において、発生する悩みや苦悩の現状、その発達のな特徴や支援の在り方について、解説する。			
授業計画 第1回：生涯発達と関係支援（担当：内田） 第2回：心の発達と適応・不適応（担当：内田） 第3回：乳幼児期の母子関係（担当：内田） 第4回：児童期の遊びと友人関係（担当：内田） 第5回：思春期の心理と危機（担当：内田） 第6回：青年期のアイデンティティ形成（担当：内田） 第7回：中年期の生きがいとうつ（担当：内田） 第8回：高齢者の心理と支援（担当：内田） 第9回：社会構成主義（担当：赤津） 第10回：システムとところ（担当：赤津） 第11回：家族システム（担当：赤津） 第12回：非言語コミュニケーション（担当：赤津） 第13回：コミュニケーションと関係（担当：赤津） 第14回：話題と意図（担当：赤津）			

第15回：フレームという考え方（担当：赤津）

定期試験は実施しない

テキスト

『みんなのシステム論』（赤津玲子他、日本評論社）

参考書・参考資料等

『問からはじめる発達心理学』（坂上裕子他3名、有斐閣）

学生に対する評価

平常点（授業への意欲、質疑応答での発言）（40%）

レポート（授業後のミニレポート30%、最終のレポート30%）（60%）

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：児玉 龍治
福祉心理学	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
福祉領域における心理社会的課題及びその課題に対する心理支援の基礎について理解する。			
授業の概要			
本科目は、① 福祉現場において生じる問題及びその背景、② 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援、③ 虐待および認知症についての基本的知識の3点を中心とした講義を行う。具体的には、社会福祉にまつわる歴史や近年の動向、理念、制度、法律を概説するとともに、福祉職と心理職についてその専門性の同異点と連携のあり方を検討する。また、虐待と認知症に焦点をあて、心理職が児童・家庭・高齢者・障害者等の福祉現場にて他職種と協働していくために必要な支援方法や倫理、心理的アセスメントについても取り上げていく。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、社会福祉の展開と心理支援			
第2回：生活を支える心理支援			
第3回：暴力被害者への心理支援			
第4回：高齢者への心理支援			
第5回：障害・疾病のある人への心理支援			
第6回：生活困窮・貧困者への心理支援			
第7回：児童虐待への心理支援			
第8回：子どもと親への心理支援			
第9回：認知症高齢者への心理支援			
第10回：ひきこもりの心理支援			
第11回：自殺予防の心理支援			
第12回：精神障害者への心理支援			
第13回：家族への心理支援			
第14回：職員（援助者）への心理支援① 支援者支援のための諸概念			
第15回：職員（援助者）への心理支援② 支援者支援の方法、全体のまとめ			
定期試験は実施しない			
テキスト			
『福祉心理学』（中島健一編、遠見書房）			
参考書・参考資料等			
授業時に適宜資料を配布する。			

学生に対する評価
中間、最終レポート（55%）
毎回の授業の最後に提出する小レポート（45%）

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：児玉 龍治
高齢者の心理と福祉	選択科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
高齢者の心理、及び高齢者に対する心理学的支援の基礎を理解する。また、高齢者福祉における社会資源とその有効な活用方法について理解する。			
授業の概要			
本科目は、福祉領域における高齢者の心理的理解と心理的支援、介護者の心理的支援などに焦点を当てながら講義を行う。具体的には、①高齢者の心理の理解（心理アセスメント）、②高齢者への心理的支援（個別カウンセリング、グループ・アプローチ）、③介護者の心理的危機への対応（コンサルテーション、心理教育、危機介入）、④社会資源の有効な活用方法（環境調整）、⑤高齢者の死と看取りにおける心理的支援などを取り上げてきたい。			
授業計画			
第1回：高齢者のこころの理解			
第2回：心理アセスメントによる高齢者の理解			
第3回：認知症高齢者の行動の心理的理解			
第4回：高齢者施設におけるケア			
第5回：高齢者への心理的支援(1) 高齢者が体験している「老い」			
第6回：高齢者への心理的支援(2) カウンセリング			
第7回：高齢者への心理的支援(3) グループ・アプローチー回想法ー			
第8回：家族介護者への心理的支援（1）家族介護者の心理的理解			
第9回：家族介護者への心理的支援（2）コンサルテーション、心理教育、危機介入			
第10回：高齢者福祉における社会資源（1）高齢者福祉における社会資源の理解			
第11回：高齢者福祉における社会資源（2）社会資源の有効な活用方法（環境調整）			
第12回：高齢者の死と看取り（1）高齢者の死と看取りにおける心理的理解			
第13回：高齢者の死と看取り（2）高齢者の死と看取りにおける心理的支援			
第14回：高齢者及び介護家族者に関わる職員（援助者）への心理的支援			
第15回：全体のまとめ			
定期試験は実施しない			
テキスト			
『老いとこころのケア』（佐藤真一・大川一郎・谷口幸一編、ミネルヴァ書房）			
参考書・参考資料等			
授業時に適宜資料を配布する。			

学生に対する評価

中間、最終レポート（55%）

毎回の授業の最後に提出する小レポート（45%）

授業科目名： 仏教と心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：吾勝 常行 野呂 靖 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
「仏教と対人コミュニケーション」をテーマに、関係性の中で形成される自己を仏教の関係理論から読み解き、対人コミュニケーション理論について基本的な理解を深める。また、地域支援の観点から、その対人コミュニケーションの社会性について習得し、学生が説明できるようになることを目標とする。			
授業の概要			
仏教と対人コミュニケーションについて理解を深めるための講義を行う。 前半では、自己と他者がどのように関係しあい、また自己がどのように他者との関わりのなかで形成されるかというコミュニケーションの問題について、仏教の基本的な関係理論（縁起・空）を踏まえつつ、東アジアに展開した宗教・哲学思想における心の理解や対人コミュニケーション理論等について理解を深めることを目的とする。 後半では、自己実現を目的とした心理カウンセリングが、仏教の倫理観とどのように融合し、対人場面で活用されているかを検討するとともに、地域支援という観点から対人コミュニケーションの社会性について理解を深めることを目的とする。			
授業計画			
第1回：講義の目的、概要、講義計画、成績評価等についての説明（担当：野呂・吾勝） 第2回：アジアにおける心の発見と分析①ーインド哲学を中心にー（担当：野呂） 第3回：アジアにおける心の発見と分析②ー仏教思想、中国哲学を中心にー（担当：野呂） 第4回：仏教におけるコミュニケーション理論（担当：野呂） 第5回：仏教における夢理解と心の分析①ーインド、中国における展開ー（担当：野呂） 第6回：仏教における夢理解と心の分析②ー日本における展開ー（担当：野呂） 第7回：仏教における夢理解と心の分析③ー近代日本における変容ー（担当：野呂） 第8回：公益性と仏教ーコミュニティ・アプローチを中心にー（担当：吾勝） 第9回：健康（精神保健）と仏教ーストレス予防法を中心にー（担当：吾勝） 第10回：仏教とカウンセリングーロジャーズのPCAを手掛かりにー（担当：吾勝） 第11回：仏教カウンセリングの実際ーEXPスケールによる検討ー（担当：吾勝） 第12回：地域支援における心理臨床ーコンサルテーションの紹介ー（担当：吾勝） 第13回：多職種連携と心理臨床ーチーム医療を中心にー（担当：吾勝） 第14回：超高齢多死社会の課題ー高齢者介護を中心にー（担当：吾勝）			

第15回： グループワークを活用した総括（担当：野呂・吾勝）

定期試験は実施しない

テキスト

講義中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

講義時に適宜紹介する。

第8～14回については下記を参照のこと。

『仏教心理学キーワード事典』（井上ウィマラ、加藤博己、葛西賢太編、春秋社、2012）

学生に対する評価

①平常点：授業への参加度（グループワーク等への参加を含む）、およびLMS（manaba）のコメント機能を利用した毎授業ごとの課題（50%）

②試験：レポート試験（50%）

①・②により総合的に評価する。

※上記①は積極的な授業への参加態度、理解度などを測るものである。講義に出席することのみにより評価されるものではないので注意すること。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：三林 真弓
感情・人格心理学	選択科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
人格や感情が心理学の歴史の中でどのように扱われ、研究が進んできたかについて理解することができる。ライフサイクルにおいて人格がどのように発達し、形成されていくかを説明することができる。感情が生じる仕組みや、我々の判断・行動に及ぼす影響を説明することができる。			
授業の概要			
感情や人格（パーソナリティ）という心理学概念について、今日までどのような研究や理論化がなされてきたか主に4つの観点、①感情に関する理論及び感情喚起の機序、②感情が行動に及ぼす影響、③人格（パーソナリティ）概念および形成過程、④人格の類型・特性、に基づいて解説し、その臨床的応用と日常生活への活用を考える。まず、感情や人格が心理学の歩みのなかでどのように扱われ、研究が進んできたかについて説明し、個人として感情や人格がどのように発達し、自己形成されていくのかについてプロセスを追って例示する。それら授業で学んだことを活かし、自己理解、他者理解、人間関係についての見識を深めることができることを目指す。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 感情・人格とは			
第2回：人格の理解（1） 人格の類型や特性について			
第3回：人格の理解（2） 力動論から考える			
第4回：感情の理論と感情喚起の機序			
第5回：感情と行動			
第6回：人格の形成過程（1） 遺伝と環境が人格形成に及ぼす影響			
第7回：人格の形成過程（2） 乳幼児期の人格形成			
第8回：人格の形成過程（3） 思春期・青年期の人格形成			
第9回：人格の形成過程（4） 壮年期・老年期の人格形成			
第10回：人格と心理アセスメント			
第11回：感情と心理アセスメント			
第12回：感情・人格と心理療法			
第13回：感情・人格と病理			
第14回：感情・人格と物語・絵本			
第15回：総括			

定期試験
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 『はじめて学ぶパーソナリティ心理学—個性をめぐる冒険』（小塩真司、ミネルヴァ書房、2010年） 『パーソナリティの心理学 ベーシック現代心理学5』（岡田康伸・藤原勝紀・山下一夫・皆藤章・竹内健児、有斐閣、2013年） 『パーソナリティ心理学概論—性格理解への扉』（鈴木公啓、ナカニシヤ出版、2012年） その他、必要に応じて授業時に紹介する。
学生に対する評価 平常点（50％）、定期試験（50％）

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：八木 隆一郎
社会・集団・家族心理学	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
本講義は、社会心理学の基本的な概念（認知、態度、モチベーション、コミュニケーション、対人関係、集団）を中心に講義し、社会的現実が形成される過程を理解することを目標とする。社会的な問題意識を醸成し、その具体的な解決に動機づけられるようにしたい。到達目標は社会的現実の形成過程を具体例をあげて説明できるようになることであり、問題解決の一手手前までを目指す。			
授業の概要			
くらしと結びついたという意味では、心理学の研究分野の中でも社会心理学がその最短距離にある。くらしの中の身近な問題に目を注ぎ、人間の行動を理解していく。こうした親しみやすい性格を利用して社会心理学への内発的興味を促進し、社会的現実が形成される心理的過程を理解することを目的とする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：大学の講義とは／社会心理学とは：社会現象の本質：社会的現実性（血液型性格判断など）			
第2回：社会的現実の形成過程（1）：社会的認知（カクテルパーティー効果・オバケ）／心理テストのうそ			
第3回：社会的現実の形成過程（2）：記憶のなぞ（記憶実験）／学習：脳の構造化（勉強法の本質）（赤ちゃんの脳、専門家の脳）／思考と情報処理：合理化と防衛機制／認知的不協和（すっぱいブドウ）／空気・水・文化・風土			
第4回：社会的現実の形成過程（3）：説得による態度変容：スリーパー効果／リアクタンス／アルゴリズムvsヒューリスティックス／マインドコントロールとは／カルト・マインドコントロールから身を守る方法			
第5回：社会的現実の形成過程（4）：他者存在の影響（影響される心）：社会的促進／社会的手抜き／集団極性化（集団決定の功罪）			
第6回：動機づけ（やる気のメカニズム）：達成動機づけ／親和動機づけ／内発的動機づけ／ワーク・モチベーションとその測定			
第7回：集団の心理：集団規範／同調行動／社会脳仮説／社会的ジレンマ			
第8回：リーダーシップ：PM理論／SL理論／変革型リーダー			
第9回：攻撃と援助：欲求不満攻撃仮説／「いじめ」の社会的現実性／人を助ける心			
第10回：対人魅力と親密性：近接性／身体的魅力／態度の類似性と役割の相補性／親密化の			

過程／恋愛の心理

第11回：社会的現実の実際：ジェンダー／女性の働きがい

マーケティングの心理：マーケティング・リサーチ（ネスカフェの教訓）／（インターカラー）／C P バランス理論

第12回：非言語的行動（コミュニケーション）：しぐさの心理／しぐさの伝える意味

第13回：講義担当者の研究：日本の労働組合、現在進行中の社会的現実：日本型企業文化

第14回：現在進行中の社会的現実（2）：日本企業の強みと弱み／A I 社会を生きる

第15回：総合議論とまとめ

定期試験

テキスト

『新・くらしの社会心理学』（小川一夫（編）、福村出版）

参考書・参考資料等

『社会のイメージの心理学』（池田謙一、サイエンス社）

『複雑さに挑む社会心理学』（亀田達也・村田光二、有斐閣アルマ）

『もう一つの社会心理学』（ケネス・ガーゲン、ナカニシヤ出版）

『人間行動に潜むジレンマ』（大浦宏邦、化学同人）

『社会心理学講義』（小坂井敏晶、筑摩選書）

『不思議現象 なぜ信じるのか こころの科学入門』（菊池聡・谷口高士・宮元博章、北大路書房）

学生に対する評価

定期試験（80％）、レポート（5％）、平常点（15％）

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：田中 智之
青年心理と友人関係	選択科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
青年期の発達の特徴の理解と、それに基づく対人関係やコミュニケーションの特徴について理解すること。またその知識を使い、青年期に関わる専門家としての実践的関わり及び対応を考えられるようになること。			
授業の概要			
青年期は「疾風怒濤の時代」と表されるように、多くの心理的变化を伴う時期である。そのような最中にある青年の心理的特徴や心理的危機について学ぶ。またそのような変化の中で、友人関係のありようも変化していく。さらに、変化していく友人関係の中で、友人関係に支えられ共に成熟していく。このような青年期の特徴について理解を深めることとする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：発達理論			
第3回：発達心理学的視点から見た対人関係の重要性			
第4回：発達段階での青年期の位置づけ			
第5回：児童期の身体的・心理的变化と対人関係			
第6回：思春期と青年期			
第7回：青年期の身体的・心理的变化			
第8回：青年期の発達課題			
第9回：青年期の心理的危機			
第10回：ジェンダー			
第11回：人間関係理解の視点青年期の対人関係			
第12回：青年期の友人関係の理解			
第13回：青年期の友人関係に見られる特徴			
第14回：現代の青年期の友人関係に見られる特徴			
第15回：青年期から成人期へ			
定期試験			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
『よくわかる青年心理学〔第2版〕』（白井利明編、ミネルヴァ書房）			

『青年期の友人関係と自己 - 現代青年の友人認知と自己の発達』（岡田努著、世界思想社）

学生に対する評価

定期試験（50%）、平常点（30%）、毎授業はじめに実施する小テスト（20%）

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：滋野井 一博
障害児支援と療育	選択科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教科に関する専門的事項「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
障がい児の障がいの特性についての基本的な理解を深めるとともにその支援と療育のあり方を理解する。			
授業の概要			
本科目は、①乳幼児期・児童期・思春期・青年期における障害の特性と概要、②障害児支援と療育の2点を中心とした講義を行う。具体的には、乳幼児期・児童期・思春期・青年期における障害の特性について先天性・後天性および外因性（器質性）心因性・内因性等の視点から各障害の特性について概説するとともに、発達臨床、教育臨床、福祉臨床および臨床心理的地域援助実践における教育職および心理専門職として発達支援に関する実務経験を通して、医療・教育・福祉の対人援助の専門職との協働の視点から心理職に求められる資質や求められる基礎的な技能について学修していくとともに「生物・心理・社会モデル」を踏まえた、医療・教育・福祉等の現場における多様な障害児支援や療育を展開のあり方について検討を行う。			
授業計画			
第1回：子どもとその障害を見つめる視点：教育・保育的・特別支援臨床・療育的・医学的視点			
第2回：障がいの概念とその原因：心因性, 外因性, 内因性			
第3回：発達障がい・神経発達症群に関する基本的理解：発達障害の定義、発達心理学的視点、生涯発達			
第4回：乳幼児期・児童期・思春期・青年期における障がいの特性に関する基本的理解			
第5回：知的障がいの理解と支援：発達障がいと知的障がいの同異			
第6回：注意欠如・多動症・（AD／HD）の理解と支援：情報伝達物質			
第7回：限局性学習症・学習障害に関する理解と支援：個体内差，情報処理過程			
第8回：自閉スペクトラム症の理解と支援：対人的相互反応			
第9回：高機能自閉性障がい・アスペルガー障がいの理解と支援：こころの理論			
第10回：脳性麻痺・てんかんの理解と支援：器質障がい、重複障がい			
第11回：特別支援教育と児童福祉にみる障がい支援：切れ目のない支援、インクルーシブ教育			
第12回：療育と発達支援：生物・心理・社会モデル、児童デイサービス、支援体制			
第13回：実態把握と相談支援：個別のニーズ、支援計画と指導計画、コーディネーター			
第14回：障がい児支援のニーズの多様化とその対応、医療的ケア、居宅訪問支援、保育所等訪問支援			

第15回：療育実践の実際：発達支援、子育て支援、多職種協働、臨床心理的地域援助
定期試験は実施しない

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

『対人援助における臨床心理学入門』（吉川悟編、ミネルヴァ書房、ISBN:9784623070763）

『臨床心理実習マニュアル』（金子書房、ISBN:9784904536506）

『I C D-10 精神および行動の障害（新訂版）』

（融道男他訳、医学書院、ISBN:9784260001335）

『D S M - 5 精神疾患の分類と診断の手引医学書院』

（高橋三郎他訳、ISBN:9784260019088）

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

レポート試験（50%）

小レポート（毎授業の最後に提出）（50%）

授業科目名： 社会科・公民科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中本和彦
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
a．中学校社会科の公民的分野に関して、学習指導要領の変遷と内容を理解する。 b．公民的分野担当の教員として必要な基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける。 c．公民的分野の授業に求められる基礎的な指導力を身に付ける。			
授業の概要			
主に中学校社会科の「公民的分野」をテーマとしつつ、小学校社会科や高等学校公民科とも関連づけながら、社会科創設以来の歩みを振り返り、学習指導要領の内容を解説し、授業の実際例や実践的課題について考察する構成とする。学習指導要領を踏まえて生徒自身が特に主体的・対話的で深い学びを進められるような授業実践研究を行う。授業では公民的分野の学習に求められる基礎的・基本的な知識や資料活用の技能、思考力・判断力・表現力の育成に必要な指導について、講義、発表、討論、模擬授業を取り入れ、授業実践力を身に付けることをねらいとする。主な内容として、次の点を扱う。 a．学習指導要領の趣旨とねらいを授業実践に生かす方法 b．確かな学力、主体的・対話的で深い学びを踏まえた公民的分野の学習指導の在り方 c．優れた授業例や模擬授業試行を基にした授業実践力向上 d．中学校社会科で求められる指導内容と方法			
授業計画			
第1回 社会科教育の最新事情と公民的分野に関する教育の現状			
第2回 社会科の創設のねらいと内容、創設以降の学習指導要領の変遷			
第3回 中学校学習指導要領改訂の要点と社会科公民的分野の目標および内容			
第4回 社会科公民的分野と小学校社会科及び高等学校公民科との内容の系統性			
第5回 公民的分野の教材内容の構成とその取扱い、教材研究の在り方			
第6回 公民的分野学習の学習方法と主体的・対話的で深い学び			
第7回 公民的分野学習の評価（評価規準等）			
第8回 公民的分野の教材研究と学習指導例（情報通信技術の活用を含む）（現代社会、国民の生活、政治参加）			
第9回 公民的分野の教材研究と学習指導案の作成			

第10回 公民的分野の模擬授業①（現代社会） 第11回 公民的分野の模擬授業②（政治） 第12回 公民的分野の模擬授業③（経済） 第13回 公民的分野の模擬授業④（国際社会） 第14回 公民的分野・模擬授業への取り組みの総括（成果と課題） 第15回 公民的分野の実践上の諸課題 定期試験
テキスト 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示 文部科学省） 『中学校学習指導要領解説 社会編』（平成29年3月告示 文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説 公民編』（平成30年3月告示 文部科学省）
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 授業での学修状況（10%）と模擬授業における活動や提出課題（40%）、および定期試験（50%）による。

授業科目名： 社会科・公民科教育法 Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中本和彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ a．公民科に関して、学習指導要領の変遷と内容を理解する。 b．公民科を担当する教員として必要な基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける。 c．公民科の授業に求められる基礎的な指導力を身に付ける。			
授業の概要 高等学校公民科の学習指導要領の内容を解説し、当教科のねらいに沿いつつ教科特有の実践的課題の解決や生徒自身が特に主体的・対話的で深い学びを進められるような授業実践研究を行う。授業では、講義、発表、討論、模擬授業を取り入れ、授業実践力の育成を目指す。主な内容として、次の点を扱う。 a．学習指導要領の趣旨とねらいを授業実践に生かす方法 b．確かな学力、主体的・対話的で深い学びを踏まえた公民科の学習指導の在り方 c．優れた授業例や模擬授業試行を基にした授業実践力向上 d．公民科で求められる指導内容と方法			
授業計画 第1回 社会科教育の最新事情と公民科教育の現状 第2回 高等学校公民科創設の経緯と学習指導要領の変遷 第3回 高等学校学習指導要領改訂の要点と「公共」の目標および内容 第4回 高等学校学習指導要領改訂の要点と「倫理」の目標および内容 第5回 高等学校学習指導要領改訂の要点と「政治・経済」の目標および内容 第6回 公民科における指導内容の関連と評価、中学校社会科との系統性、道徳との関係 第7回 公民科の指導例（情報通信技術の活用を含む）（公共、倫理、政治・経済） 第8回 「公共」の構成と学習指導案の作成 第9回 「倫理」の構成と学習指導案の作成 第10回 「政治・経済」の構成と学習指導案の作成 第11回 模擬授業①「公共」と授業結果の分析 第12回 模擬授業②「倫理」と授業結果の分析 第13回 模擬授業③「政治・（経済）」と授業結果の分析			

第14回 模擬授業④「（政治）・経済」と授業結果の分析 第15回 公民科教育の実践上の諸課題 定期試験
テキスト 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示 文部科学省） 『中学校学習指導要領解説 社会編』（平成29年3月告示 文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説 公民編』（平成30年3月告示 文部科学省）
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 授業での学修状況（10%）と模擬授業における活動や提出課題（40%）、および定期試験（50%）による。

授業科目名： 道徳教育指導法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：橋本（甲良）雅子 担当形態：単独
科 目	・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 ・大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・道徳の理論及び指導法		
授業の到達目標及びテーマ 【到達目標】 ・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 ・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。 【テーマ】 道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる道徳教育の実現を目指す。			
授業の概要 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容を理解し、現代社会における道徳教育の課題や子どもの実態に応じた指導計画や指導方法、道徳の特質を踏まえた評価の在り方を学ぶ。また、グループにおいて、教材の分析や授業構想を検討し学習指導案を作成する。各グループの模擬授業を通して、ねらいに応じた授業が実現したかを振り返る時間を持ち、授業を改善していくことで実践的な指導力を身に付ける。			
授業計画 第1回：道徳教育の意義 第2回：道徳教育の歴史や現代社会における課題 第3回：道徳教育・道徳科の目標及び道徳性 第4回：子どもの発達段階に応じた道徳科の内容 第5回：道徳教育の指導計画と教育活動全体を通じた道徳教育 第6回：道徳教育における家庭や地域社会等との連携 第7回：学習指導案の内容と作成手順 第8回：指導方法の創意工夫 第9回：資料分析と授業構想 第10回：模擬授業① 資料分析と授業構想(グループワーク) 第11回：模擬授業② 学習指導案の作成（グループワーク） 第12回：模擬授業・研究会③ ねらいと中心発問			

第 13 回：模擬授業・研究会④ 展開の工夫 第 14 回：振り返りと授業改善 第 15 回：道徳の特性を踏まえた評価の在り方 定期試験
テキスト 『中学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示、文部科学省） 『中学校学習指導要領解説 道徳編』（平成 29 年 7 月、文部科学省）
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 期末試験 60%、授業中の課題（指導案・模擬授業等）40%を総合的に評価する。

授業科目名：日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：奥野 恒久 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
憲法の基本原理と日本国憲法に関する基本的な知識を身につける。具体的には、 1. 憲法とはどのような法で、立憲主義とはどのような考え方を理解する。 2. 基本的な憲法理論や学説・判例を理解する。 3. 現在の日本社会のあり様を考えながら、憲法問題について自らの考えを深める。			
授業の概要			
21世紀に入ってから日本は、教育・福祉・労働・政治の仕組み、そして平和のありよう等をめぐって揺れ動いている。少子高齢化、地球環境問題、災害への対応、コロナなど感染症への対応、食糧問題などを考えると、私たちの暮らしや社会のあり方についての根本的な検討もなされなければならない。これらは、国家の基本法である憲法の問題でもある。また、2015年成立した「安保関連法」、沖縄の米軍基地問題、「君が代」・女性の再婚禁止期間・夫婦別姓・議員の定数不均衡などをめぐる最高裁判決、首相の靖国参拝、特定秘密保護法、天皇の代替わり問題、日本学術会議委員の首相による任命拒否問題など、個別の憲法問題も話題になっている。さらに憲法9条に自衛隊を明記する改憲論や緊急事態条項を憲法に加えようという改憲論も提起されている。 しかし、確認しておいてほしいことは、通常国会の召集は憲法52条に基づいて、内閣総理大臣の指名は憲法67条に基づいてといったように、政治は憲法に基づいて現に行われている、ということである。 本講義では、現実には起きている問題を意識しながら、日本国憲法の発するメッセージについて、歴史的に培われてきた憲法理論、裁判所が出してきた判例、専門の研究者による学説、さらには人々の運動や意識を参照しながら考えていく。高校までの憲法の勉強とは違い、様々な見方や情報を参照しつつ、一人ひとりの考えを深めてもらうこととなる。			
授業計画			
第1回：はじめに			
第2回：憲法の最高法規性			
第3回：国民主権と天皇制			
第4回：参政権、国会			
第5回：内閣と議院内閣制			
第6回：司法権と違憲審査制			
第7回：平和主義と憲法9条			

第8回：人権尊重主義と人権の限界

第9回：法の下での平等

第10回：信教の自由と政教分離

第11回：表現の自由（1）（表現の自由の優越的地位、二重の基準論、わいせつ表現）

第12回：表現の自由（2）（表現の自由とプライバシー、政治的表現の規制）

第13回：経済的自由と生存権

第14回：身体の自由と刑事手続き

第15回：まとめと補足

定期試験

テキスト

「入門・憲法学」（木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編、法律文化社）

参考書・参考資料等

「憲法第7版」（芦部信喜、日本評論社）

「憲法学教室第3版」（浦部法穂、日本評論社）

学生に対する評価

平常点（60％・毎授業時に授業内容に関するミニレポートか小テストを課す）

レポート（10％）

定期試験（30％・論述問題）

授業科目名：体育実技	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：村田 健三郎 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 「わかること（理解）」と「できること（実践力）」の関係性が理解できるとともに、 講義内容と教職との関わりについても検討できる。			
授業の概要 バドミントンを教材として、 1）スポーツ独自の面白さを知る、2）スポーツ技能を系統的に獲得する方法を理解する 3）獲得した技能をどのようにゲームで活かすかについて考えられることを目的とする。 また、「わかること（理解）」と「できること（実践力）」との統一をめざし、教授－学習の方 法論を共に考える。			
授業計画 第1回：授業の内容と進め方、知識・技能の現状把握と課題の確認 第2回：技術分析と課題学習① ハイクリアー 第3回：技術分析と課題学習② ドロップ 第4回：技術分析と課題学習③ ヘアピン 第5回：技術分析と課題学習④ ロングサービス 第6回：技術分析と課題学習⑤ スマッシュ 第7回：技術分析と課題学習⑥ シングルスゲーム撮影 第8回：技術分析と課題学習⑦ ドライブ 第9回：技術分析と課題学習⑧ ショートサービス 第10回：技術分析と課題学習⑨ プッシュ 第11回：技術分析と課題学習⑩ サイドバイサイド 第12回：技術分析と課題学習⑪ トップアンドバック 第13回：技術分析と課題学習⑫ ダブルスゲーム撮影 第14回：技術分析と課題学習⑬ シングルス・ダブルスゲーム 第15回：理解と実践の関係性を考える			
テキスト特になし			
参考書・参考資料等 「バドミントン教本 基本編」日本バドミントン協会編、ベースボールマガジン社 その他の参考資料等は、授業時に適宜提示する			
学生に対する評価 平常点（50％・実技での主体的な取り組みを評価します）、レポート（50％・「できること」と 「わかること」との関係性を教職との関わりを含み論じた内容を評価します）			

授業科目名：スポーツと 人権・平和	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：岡本 大典 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
スポーツと人権、スポーツと平和について、問題点を指摘して自分の考えを説明できるようになるとともに、人権擁護や平和実現においてスポーツがどのような価値を持つかについて自分の意見を述べるができるようになる。			
授業の概要			
スポーツは本質的には楽しむべきものである。しかし、スポーツの現場では、人種、民族差別や、ジェンダーに関する差別などにより、スポーツをすることで人が傷つくという、本末転倒なことが起こることがあり得る。この講義では、どのような人権侵害が起こっているのか、人権を保障するためにどのような努力がなされているのかなど、スポーツと人権の関係について考察する。また、スポーツは、世界中の人々が楽しめることから、国際交流の場にもなっている。スポーツを通して、世界の平和にかかわっていく取り組みもなされている。この講義では、こうしたスポーツと平和の関係についても取り上げる。スポーツと人権、スポーツと平和について事例を交えつつ考える。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：「スポーツ」とは、「法」とは			
第3回：スポーツと人権保障			
第4回：スポーツと人権侵害（1）人種、民族差別			
第5回：スポーツと人権侵害（2）ジェンダー、子どもの保護			
第6回：スポーツと人権侵害（3）体罰、セクハラ、パワハラ			
第7回：スポーツと人権侵害（4）連帯責任、移籍制限			
第8回：スポーツと平等（1）パラスポーツ			
第9回：スポーツと平等（2）アンチ・ドーピング			
第10回：スポーツ紛争の解決手段			
第11回：スポーツにおけるグッドガバナンス			
第12回：スポーツと平和（1）サステナビリティ			
第13回：スポーツと平和（2）オリンピックと平和			
第14回：スポーツと平和（3）スポーツによる平和創造			
第15回：まとめ			
定期試験			

テキスト

「スポーツ法へのファーストステップ」 (石堂典秀・建石真公子著、法律文化社)

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

平常点 (30%・講義中の質問に対する応答等の総合評価)

定期試験 (70%)

授業科目名：健康とスポーツ	教員の免許状取得のため の選択科目	単位数 ：2単位	担当教員名：河合 美香、鈴木 啓央 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 ・運動と栄養の役割について理解する。 ・身体活動状況とエネルギー所要量などを把握する。 ・日常の食生活において理論を実践する能力を養う。			
授業の概要 健康づくりには、「運動」と「栄養」、「休養」の三要素の質と量に加え、これら三要素のそれぞれの内容と相互のタイミングにより、生体や精神面への効果が異なる。また、心身の健康は、教育や経済状況、社会環境などとも関連し、影響されていることから、健康づくりを推進するためには、制度・政策、また企画・実践など、実践を可能とする環境の整備も必要である。 本講では、健康づくりに効果的な運動の実践と食事の摂取について、身体づくりと疲労の回復、ウエイトコントロール、スタミナづくりなど、日常生活の中で実践し得る基礎理論を学修する。 また、健康の維持増進について、教育や経済状況、社会環境の視点から、今後、必要な環境の整備についても学修する。			
授業計画 第1回：健康づくりに不可欠な要素 第2回：健康に関する要素 第3回：身体づくりに効果的な運動と食事 第4回：基礎代謝量とエネルギーの収支 第5回：ウエイトコントロールに効果的な運動 第6回：ウエイトコントロールに効果的な食事 第7回：疲労の原因とその対策 第8回：疲労の回復に効果的な食事 第9回：骨づくりに効果的な運動と食事 第10回：スタミナづくりと効果的な食事 第11回：ストレスと食事：摂食障害とは 第12回：生活習慣病とその予防、対策 第13回：発育発達期の食育活動 第14回：サプリメントの効果とその効果の検証 第15回：添加物の実と課題 定期試験			

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

「実践的スポーツ栄養学」（鈴木正成著、文光堂）

「市民からアスリートまでのスポーツ栄養学」（岡村浩嗣著、八千代出版）

学生に対する評価

平常点（40％・授業で課すテーマに対する考察等により評価）

定期試験（60％・授業の内容について、理解度を確認するテスト）

授業科目名：現代社会とスポーツ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松畑 尚子 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
・スポーツの諸事象における課題について、社会との関わりを考えながらとらえ、多角的に考察できるようになる。 ・現代社会とスポーツとの関係を認識し、スポーツを通して、よりよい社会を築いていくことに貢献しようとする意欲を持つようになる。			
授業の概要			
スポーツは、現代社会において極めて重要な社会現象となっています。私たちは、日常生活の中で遊びや気晴らしとして、レクリエーションとして、競技として、教材として、商品として等、様々なかたちでスポーツと関わっています。この授業では、身の回りで日常的に起こっているスポーツ諸事象の中から、スポーツと社会との関係を知る上での基本的なトピックを選び、スポーツの社会的機能や意義、役割について検討していきます。変化する社会や生活との関連の中でスポーツをとらえ、今後の望ましいスポーツのあり方を共に考えましょう。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション ―講義概要、授業計画、成績評価等について―			
第2回：データでみるスポーツ人口の実態 ―する・みる・ささえるスポーツ人口の実態等―			
第3回：スポーツと社会 ―スポーツの文化的性格、近代スポーツの誕生と社会背景、スポーツ観等―			
第4回：スポーツとジェンダー ―男／女らしさとスポーツ、セクシャル・ハラスメント等―			
第5回：スポーツと法 ―スポーツと法の関わり、スポーツ権、アンチ・ドーピング等―			
第6回：スポーツと政策 ―公共政策、スポーツ政策、スポーツ基本計画等―			
第7回：スポーツと政治 ―ナショナリズムとスポーツ、スポーツと国籍等―			
第8回：スポーツと政治 ―パワーハラスメント、勝利至上主義、フリーガニズム等―			
第9回：スポーツと学校体育 ―子どもの体力・運動能力、学校運動部活動、懲戒行為と体罰等―			
第10回：スポーツとお金・財政 ―スポーツ関係予算、スポーツ振興くじ（toto）、公営競技等―			
第11回：スポーツとコミュニティ ―スポーツと地域活性化、総合型地域スポーツクラブ等―			
第12回：スポーツとコミュニティ ―高齢者や障がい者のスポーツ参加、パラリンピック、スペシャルオリンピックス、デフリンピック等―			
第13回：スポーツとメディア ―メガスポーツイベント、放映権、ユニバーサルアクセス権等―			
第14回：スポーツとビジネス ―スポーツの商業化/産業化、スポンサー制度等―			
第15回：まとめ ―授業の総括と理解度の確認―			

テキスト

授業時に適宜関連資料を提示する。

参考書・参考資料等

「スポーツ文化を学ぶ人のために」（井上俊・亀山佳明著、世界思想社）

「教養としての体育原理」（友添秀則・岡出美則著、大修館書店）

「よくわかるスポーツ文化論」（井上俊・菊幸一、ミネルヴァ書房）

その他、授業時に適宜紹介する。

学生に対する評価

平常点（40％・毎授業内で提示する課題に対するコメントの提出を求め、内容を評価する）

レポート（60％・期末レポートを課す。レポートは、①講義の内容を適切に理解しているか、②講義の内容を踏まえて自分なりの問題意識を提示できているか、③論理構成の的確さなどを基準に総合的に評価する）

授業科目名：人間とスポーツ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：河合 美香 担当形態：単独
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等		体育	
授業のテーマ及び到達目標			
・スポーツについて、多角的な視点から考える。 ・今後の自身のスポーツとの関わり方について考える。			
授業の概要			
2011年、50年ぶりにスポーツ振興法が全部改定され、スポーツ基本法が公布された。スポーツ基本法は、スポーツに関し、基本理念を定め、国、及び地方公共団体の責務、並びにスポーツ団体の努力等を明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めたものである。スポーツは、これまでの身体活動、すなわち「実施する」他に、「みる」、「支える」、「企画する」など、そのとらえ方が広く拡大している。また近年では、健康政策と経済効果、地域の活性化などスポーツに対する期待が高まっている。 本講義では、「競技スポーツ」のみならず、「生涯スポーツ」としてのスポーツについて、「発育発達期」と「成熟期」、また「中高年期」など、ライフステージに応じた効果的な運動（スポーツ）について考える。また、「障がいスポーツ」や「女性スポーツ」の他、近年、スポーツ界で生じているいじめや暴力、ハラスメントなど、様々な問題、課題等について、スポーツを自然科学から社会科学まで、多角的な視点から考える。			
授業計画			
第1回：スポーツとは何か、スポーツの定義			
第2回：健康とは何か、日本人は健康か			
第3回：健康の現状と課題			
第4回：生活習慣病とその対策			
第5回：健康づくりに効果的な運動			
第6回：スポーツイベントの企画とその効果			
第7回：トレーニングの実際			
第8回：競技スポーツの変遷			
第9回：競技スポーツの現状と課題			
第10回：スポーツと人権			
第11回：障がい者とスポーツ			
第12回：発育発達期の運動機能の獲得			
第13回：発育発達期の運動と食事			
第14回：加齢とスポーツ			
第15回：女性とスポーツ			

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

「生涯スポーツ実践論 ー生涯スポーツを学ぶ人たちにー改定3版」 （川西正志・野川春夫、市村出版）

学生に対する評価

平常点（60％・授業で課せられるテーマに対し、真摯に考察しているかを評価する）

小テスト（40％・授業の内容について、理解度を確認する）

授業科目名：英語総合１（Ａ）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：前田 哲宏、 山岡 華菜子、浅若 裕彦、 尾崎 俊朗、荒木 康裕、 尾崎 裕子、長田 希好、 神谷 佳郎
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 事実に基づくまとまりのある英文を未知語を類推しながら読み進めることができる。 ・ 英文を通して得た情報について考え、他者に向けて自分の意見を表現することができる。 ・ 協働学習を通して、自律的な学習態度を身につける。			
授業の概要			
英文の大意を速くかつ正確に把握する能力、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指し、読解に重点を置いた教材を用いて授業を行う。			
授業計画			
第 1 回：Introduction			
第 2 回：Reading & Exchange of opinions A Sweet Love			
第 3 回：Reading & Exchange of opinions B Food for the Future			
第 4 回：Reading & Exchange of opinions A Song of the Humpback			
第 5 回：Reading & Exchange of opinions B The 1,000-Year Bird Song			
第 6 回：Reading & Exchange of opinions A Was King Tut Murdered?			
第 7 回：Reading & Exchange of opinions B Who Killed the Iceman?			
第 8 回：前半の授業のまとめ（まとめのテスト 1）			
第 9 回：Reading & Exchange of opinions A Living Treasures			
第 1 0 回：Reading & Exchange of opinions B The Changing Face of Kung Fu			
第 1 1 回：Reading & Exchange of opinions A The Secrets in the Sand			
第 1 2 回：Reading & Exchange of opinions B The Stories in the Rocks			
第 1 3 回：Reading & Exchange of opinions A Cities Beneath in the Sea			
第 1 4 回：Reading & Exchange of opinions B The Truth about Great Whites			
第 1 5 回：後半の授業のまとめ（まとめのテスト 2）			
テキスト			
「Reading Explorer 2, 3rd Edition, Text Only」（Paul MacIntyre、センゲージラーニング）			

「Data Base Avail 4 技能 英単語・熟語」 （桐原書店編集部、桐原書店）
参考書・参考資料等
特になし
学生に対する評価
平常点（30％・積極的な授業への参加、課題等）
小テスト（50％・まとめテスト2回）
レポート（20％・自主教材の単語テスト）

授業科目名：英語総合1（B）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：1単位	担当教員名：川島 伸博、河野 淳子、碓井 智子、ドールトン フランク、工藤 和也、村瀬 文子、尼崎 俊朗、菊川 雅子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
① 英語の語彙力と表現力を強化し、総合的な英語のリスニング能力を向上させる。			
② 英語のニュース番組の内容を理解し、取り上げられている話題について自ら考え、他者に向けて英語で発信できるようになる。			
③ 授業の予復習を通して自律的な学習態度を身につける。			
授業の概要			
基本的な事柄について話された英語を正確に聞き取る能力の養成、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指し、視聴覚教材を重点的に用いて授業を行う。また、自律的な学習態度を養うことも目指す。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：Unit 1 (Reading & Exchange of opinions) Summer Baseball			
第3回：Unit 2 (Reading & Exchange of opinions) Native American Culture			
第4回：Unit 3 (Reading & Exchange of opinions) American Food			
第5回：Unit 4 (Reading & Exchange of opinions) American English - Slang & Idioms			
第6回：Unit 5 (Reading & Exchange of opinions) Christmas Spirit			
第7回：前半の授業のまとめ（まとめのテスト1、解説）			
第8回：Unit 6 (Reading & Exchange of opinions) Cowboys			
第9回：Unit 7 (Reading & Exchange of opinions) Disney Family Museum			
第10回：Unit 8 (Reading & Exchange of opinions) Google Innovation			
第11回：Unit 9 (Reading & Exchange of opinions) The Blues			
第12回：Unit 10 (Reading & Exchange of opinions) Halloween Screeworld			
第13回：Unit 11 (Reading & Exchange of opinions) American Superheroes			
第14回：Unit 12 (Reading & Exchange of opinions) Volunteers - Age in Place			
第15回：後半の授業のまとめ（まとめのテスト2、解説）			
テキスト			

「アメリカン・ヴィジョン」 (John S. Lander、朝日出版社)
「Data Base Avail4技能 英単語・熟語」 (桐原書店編集部編、桐原書店)
参考書・参考資料等 辞書を参考とすること
学生に対する評価 平常点 (40%・受講態度や予復習の状況等を総合して評価) 小テスト (50%・まとめテスト2回) その他 (10%・自主教材単語テスト)

授業科目名：英語総合 2 (A)	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：1 単位	担当教員名：前田 哲宏、 山岡 華菜子、浅若 裕彦、 尾崎 俊朗、荒木 康裕、 尾崎 裕子、長田 希好、 神谷 佳郎
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 事実に基づくまとまりのある英文を未知語を類推しながら読み進めることができる。 ・ 英文を通して得た情報について考え、他者に向けて自分の意見を表現することができる。 ・ 協働学習を通して、自律的な学習態度を身につける。			
授業の概要			
標準的な語彙で書かれた英文の大意を速くかつ正確に把握する能力の養成、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指し、読解に重点を置いた教材を用いて授業を行う。			
授業計画			
第1回：Introduction、Do Animals Know Things We Don't Know? <Reading & Exchange of opinions>			
第2回：Godiva-The Chocolate and the Lady<Reading >			
第3回：Aloha Hawaii<Reading>			
第4回：Everyone Loves a Circus<Reading & Exchange of opinions>			
第5回：Text Messaging<Reading>			
第6回：What Type Are You? <Exchange of opinions>			
第7回：Japanese Food Customs<Reading >			
第8回：まとめのテスト1、解説			
第9回：Mascot Characters<Reading >			
第10回：Trees-One of Nature's Wonders<Reading >			
第11回：これまでのまとめ、英語確認テスト			
第12回：Koban at Your service<Reading>			
第13回：3-D Printers<Reading & Exchange of opinions>			
第14回：Fashion Trends Start Here<Reading & Exchange of opinions>			
第15回：まとめのテスト2、解説			
テキスト			
「Reading Steps」 (Robert Hickling/臼倉美、金星堂)			

「Data Base Avail 4 技能 英単語・熟語」 （桐原書店編集部、桐原書店）
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 平常点（30％・積極的な授業への参加、課題の提出状況） 小テスト（40％・まとめテスト2回） その他（30％・自主教材の単語テストおよび英語確認テスト）

授業科目名：英語総合 2 (B)	教員の免許状取得 のための選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：川島 伸博、 河野 淳子、碓井 智子、 ドールトン フランク、 工藤 和也、村瀬 文子、 尼崎 俊朗、菊川 雅子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目		教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション	
授業のテーマ及び到達目標			
①英語での日常会話に必要な標準的な語彙や文法を習得し、英語のリスニング能力を強化する。			
②英語を聴き理解するために必要な概念や聴き取りのコツ（リスニング・スキル）を習得する。			
③他者に向けて英語で自分の意見を表現できるようになる。			
④授業の予復習を通して自律的な学習態度を身につける。			
授業の概要			
基本的な事柄について話された英語を正確に聞き取る能力の養成、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指し、視聴覚教材を重点的に用いて授業を行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：Work & Jobs<Reading & Exchange of opinions>			
第3回：Food & Drink<Reading & Exchange of opinions>			
第4回：Invitations<Reading & Exchange of opinions>			
第5回：Education<Reading & Exchange of opinions>			
第6回：Health<Reading & Exchange of opinions>			
第7回：Review of Units 1-6			
第8回：まとめテスト1、解説			
第9回：Looks<Reading & Exchange of opinions>			
第10回：Shopping<Reading & Exchange of opinions>			
第11回：Phoning<Reading & Exchange of opinions>			
第12回：Transportation<Reading & Exchange of opinions>			
第13回：Weather<Reading & Exchange of opinions>			
第14回：Review of Units 9-13			
第15回：まとめテスト2、解説			
テキスト			
「Listening Lounge」 (Steve Ziolkowski／GaryBuck／宍戸真、成美堂)			
「Data Base Avail4技能 英単語・熟語」 (桐原書店編集部編、桐原書店)			

参考書・参考資料等

辞書を参考とすること

学生に対する評価

平常点（30％・授業内課題。正答数に応じて相対評価）

小テスト（50％・まとめテスト2回）

その他（20％・自主教材単語テスト）

授業科目名：英語総合3（A）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：1単位	担当教員名：嶋林 昭治、内田 有紀、顕谷 美枝子、伊藤 正栄、喜多 留女、工藤 敦子、黒田 一平、関 初海
			担当形態：クラス分け・単独
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション	
授業のテーマ及び到達目標			
・ 専門的・知的な英文を読む際に必要とされる構文把握力、語彙力等を身につける。 ・ 単なる訳読ではなく、パラグラフごとに内容を要約し、筆者の主張をまとめ、自分自身の見解を表明できるようになる。 ・ 授業を通して英語についての自律的な学習態度を身につける。			
授業の概要			
専門的な内容を持った英文にも対応出来るようなより総合的な読解能力の養成を目指し、1年次よりもやや高度な読解用の教材を用いて授業を行う。また、読み取った情報について、自身の考えを英語で表現する練習も行う。			
授業計画			
第1回：Introduction 受講上の注意など			
第2回：The Brexit Referendum<Reading & Exchange of opinions>			
第3回：The New Mayor of London<Reading & Exchange of opinions>			
第4回：Brits on Bikes<Reading & Exchange of opinions>			
第5回：Oxford and Cambridge: Looking to the Future<Reading & Exchange of opinions>			
第6回：A Profile of Cornwall<Reading & Exchange of opinions>			
第7回：The Cost of Being Young Today<Reading & Exchange of opinions>			
第8回：まとめのテスト1、解説			
第9回：It All Began at Rugby School<Reading & Exchange of opinions>			
第10回：Britain and the Sea<Reading & Exchange of opinions>			
第11回：Images of Scotland<Reading & Exchange of opinions>			
第12回：“The New Look”: Beards and Tattoos<Reading & Exchange of opinions>			
第13回：The Japanese in Britain<Reading & Exchange of opinions>			
第14回：まとめのテスト2、解説			
第15回：振り返り			
テキスト			
「Britain at a Watershed」（John H. Randle, Atsushi Mukuhira、成美堂）			

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

平常点（30％・授業への積極的な参加や授業内の活動を総合的に評価）

小テスト（40％・まとめのテスト2回）

その他（30％・複数回の課題提出）

授業科目名：英語総合3（B）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：1単位	担当教員名：前田 哲宏、村瀬 文子、山岡 華菜子、荒木 康裕、川田 伸道、國友 万裕、黒田 一平、ゴーマン ジョン
			担当形態：クラス分け・単独
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション	
授業のテーマ及び到達目標			
・英語リスニング活動を通して現代社会問題について考える。 ・ディクテーションや聞き取りながらのノートテイキングといった活動を通じて総合的な英語リスニング能力を養う。 ・英語リスニング活動を通して自律的な学習態度を身につける。			
授業の概要			
ある程度の長さを持った英文でも聞き取ることが出来るようなより総合的な聴解能力の養成を目指し、1年次よりもやや高度な視聴覚教材を用いて授業を行う。また、聞き取った情報について、自身の考えを英語で表現する練習も行う。			
授業計画			
第1回：Introduction			
第2回：Making Waves with a Magical Instrument<Reading & Exchange of opinions>			
第3回：Backstage Tour with Augmented Reality Stars AR<Reading & Exchange of opinions>			
第4回：Drinking to Eat<Reading & Exchange of opinions>			
第5回：Next Generation Mobility<Reading & Exchange of opinions>			
第6回：Eco-friendly Fashion Statement<Reading & Exchange of opinions>			
第7回：まとめのテスト1、解説			
第8回：Building a Bridge to Share a Son’s Dream<Reading & Exchange of opinions>			
第9回：Taking Aim<Reading & Exchange of opinions>			
第10回：Boccia Boom Revitalizing Japanese Companies<Reading & Exchange of opinions>			
第11回：Rising Profile<Reading & Exchange of opinions>			
第12回：All Blacks Cause City to Rethink Ink<Reading & Exchange of opinions>			
第13回：Man-made Threat to Japanese Deer<Reading & Exchange of opinions>			
第14回：まとめテスト2、解説			
第15回：Review			
テキスト			

「NHK NEWSLINE 4」 (山崎達朗／Stella M. Yamazaki／Erika C. Yamazaki、金星堂)
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 平常点 (20%・受講態度や予復習の状況などを総合して評価) 小テスト (80%・予習確認テスト、まとめのテスト2回)

授業科目名：ドイツ語Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐藤 和弘、 江城 忠雄
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
ドイツ語の基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができるようになること。			
授業の概要			
発音練習からはじめ、話し言葉を中心に基本的表現を習得し、受講生同士でやりとりを行う。この過程を通して初歩的な文法事項・会話方法について学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：アルファベット			
第3回：あいさつの表現、あいさつの実践			
第4回：発音			
第5回：動詞の現在人称変化			
第6回：語順			
第7回：数詞（1）基数			
第8回：名詞の性、人称代名詞			
第9回：冠詞の変化			
第10回：動詞の命令形			
第11回：名詞の複数形、「話してみよう」（第4回～11回の内容を踏まえて）			
第12回：否定文の作り方			
第13回：話法の助動詞			
第14回：前置詞、前置詞と定冠詞の融合形			
第15回：複合動詞（前つづり+基礎動詞）			
第16回：接続詞			
第17回：形容詞の格変化			
第18回：動詞の3基本形、過去人称変化			
第19回：現在完了形、「話してみよう」（第12～19回の内容を踏まえて）			
第20回：数詞（2）序数			
第21回：受動態			
第22回：比較級と最上級			

第23回：関係代名詞

第24回：指示代名詞

第25回：再帰代名詞、再帰動詞

第26回：zu不定詞句

第27回：分詞の用法、非人称動詞、「話してみよう」（第20～27回の内容を踏まえて）

第28回：接続法第Ⅱ式（1） 人称変化

第29回：接続法第Ⅱ式（2） 非現実なことがら、控えめな表現

第30回：接続法第Ⅰ式 人称変化、要求話法、間接話法、「話してみよう」（第1～30回の内容を踏まえて）

テキスト

「ドイツに行ってみませんかver. 3」（佐藤和弘他著、郁文堂）

参考書・参考資料等

授業時に適宜支持する。辞書『アポロン独和辞典』『クラウン独和辞典』等

学生に対する評価

平常点（60%、授業中の積極的参加態度、宿題・レポート等の提出）

小テスト（40%）

授業科目名：フランス語Ⅰ	教員の免許状取得 のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：廣瀬 純、 安村 恵子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション	
授業のテーマ及び到達目標			
フランス語の基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができるようになること。			
授業の概要			
発音練習からはじめ、話し言葉を中心に基本的表現を習得し、受講生同士でやりとりを行う。この過程を通して初歩的な文法事項・会話方法について学ぶ。			
授業計画			
第1回：アルファベットを発音する			
第2回：発音と綴り字			
第3回：主語人称代名詞、あいさつ			
第4回：動詞 Etre の直説法現在と形容詞の性・数の一致			
第5回：名詞の性・数と不定冠詞			
第6回：動詞 Avoir の直説法現在と否定文			
第7回：定冠詞と第一群規則動詞の直説法現在			
第8回：疑問文の作り方、指示形容詞と所有形容詞			
第9回：会話練習			
第10回：形容詞の位置と女性形と複数形			
第11回：疑問代名詞と疑問副詞			
第12回：近接未来と近接過去			
第13回：前置詞と定冠詞の縮約形			
第14回：中性代名詞			
第15回：疑問形容詞と非人称構文			
第16回：部分冠詞と数量の表現			
第17回：補語人称代名詞			
第18回：主要不規則動詞			
第19回：代名動詞、命令法			
第20回：会話練習			
第21回：直説法単純未来			
第22回：直説法複合過去			
第23回：直説法半過去と直説法大過去			

第24回：関係代名詞と指示代名詞

第25回：比較級と最上級

第26回：受動態

第27回：現在分詞とジェロンドイフ

第28回：条件法現在と条件法過去、接続法現在と接続法過去

第29回：主要語彙の総復習

第30回：会話練習

テキスト

「アミカルマン プリュス」（澤田直、駿河台出版）

参考書・参考資料等

授業時に適宜指示する（「クラウン仏和辞典」と「プチロワイヤル仏和辞典 第5版」等）

学生に対する評価

平常点（50%、出席・宿題・レポート）

小テスト（50%）

授業科目名：中国語Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：中木 愛、 白崎 藍
			担当形態：クラス分け・単独
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション	
授業のテーマ及び到達目標			
中国語の基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができるようになること。			
授業の概要			
“ピンイン”による発音の基礎を習得し、受講生同士でやりとりを行う。初級文法事項・会話方法を学ぶ。			
授業計画			
第1回：音節の構成 声母 韻母 声調			
第2回：声母・韻母・声調の結合 音変化			
第3回：あいさつのことば、あいさつ			
第4回：人称代詞			
第5回：指示代詞			
第6回：名前の言い方・たずね方			
第7回：動詞述語文			
第8回：“不”と“没（有）”のちがい、数詞 1から99まで			
第9回：会話練習			
第10回：隔音符号			
第11回：“几”と“多少”			
第12回：名詞述語文、形容詞述語文			
第13回：会話練習			
第14回：量詞			
第15回：“了1”と“了2”			
第16回：時刻・時間の言い方			
第17回：連動句			
第18回：結果補語			
第19回：限定語と“的”			
第20回：“在” “在”と“有”の比較 “在”+場所を表す語（句）			
第21回：数詞 100以上、二重目的語			
第22回：会話練習			
第23回：選択疑問文			

第24回：主な句読点符号

第25回：曜日の言い方、年月日の言い方

第26回：会話練習

第27回：反復疑問文

第28回：兼語句

第29回：時間量補語、可能補語

第30回：会話練習

定期試験

テキスト

「練習帳付き 大学漢語」（衛榕群・中木愛著、白帝社）

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

授業時実施小テスト（30％）

定期試験（70％）

授業科目名：スペイン語Ⅰ	教員の免許状取得 のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：安藤 真次郎、 安田 圭史
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
スペイン語の基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができるようになること。			
授業の概要			
発音練習からはじめ、話し言葉を中心に基本的表現を習得し、受講生同士でやりとりを行う。この過程を通して初歩的な文法事項・会話方法について学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、簡単なあいさつ			
第2回：文字、アクセント、あいさつの実践			
第3回：主格人称代名詞、ser動詞			
第4回：estar動詞、名詞			
第5回：冠詞、形容詞、基数(1-10)			
第6回：ar動詞、er動詞、ir動詞			
第7回：tenerの活用と用法			
第8回：irとvenirの活用と用法			
第9回：基数(11-100)、時刻の表現、会話練習			
第10回：接続詞、前置詞			
第11回：語根母音変化動詞			
第12回：目的格人称代名詞			
第13回：gustarの活用と用法			
第14回：所有詞と指示詞			
第15回：比較級と最上級、会話練習			
第16回：点過去（規則動詞）			
第17回：点過去（不規則動詞）			
第18回：線過去（規則動詞）（不規則動詞）			
第19回：haber動詞の活用と用法、基数(101-1億)、現在分詞			
第20回：これまでのまとめと会話練習			
第21回：hacer動詞の活用と用法			
第22回：不定語、否定語、前置格人称代名詞			

第 2 3 回：過去分詞、受動文、現在完了、会話練習

第 2 4 回：再帰動詞① 活用

第 2 5 回：再帰動詞② 用法

第 2 6 回：命令法、関係詞

第 2 7 回：未来形、過去未来形

第 2 8 回：会話練習

第 2 9 回：接続法現在（規則動詞）

第 3 0 回：接続法現在（不規則動詞）、会話練習

定期試験

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

「プログレッシブ・スペイン語辞典」（鼓直他著、小学館）

「スペイン語文法ハンドブック」（上田博人著、研究社）

「新版 スペイン語の入門」（瓜谷良平著、白水社）

「グレード別 スペイン単語初歩の10000」（岡本信照・安藤真次郎著 同学社）

学生に対する評価

平常点（50％）

定期試験（50％）

授業科目名：コリア語Ⅰ	教員の免許状取得 のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：許 秀美、 金 情浩
			担当形態：クラス分け・単独
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション	
授業のテーマ及び到達目標			
コリア語の基本的な言い回しや日常的表現を使って、ごく簡単なやりとりをすることができるようになること。			
授業の概要			
発音練習からはじめ、話し言葉を中心に基本的表現を習得し、受講生同士でやりとりを行う。この過程を通して初歩的な文法事項・会話方法について学びます。			
授業計画			
第1回：はじめに			
第2回：母音と子音			
第3回：基本母音字			
第4回：子音字			
第5回：7つの終声、用言の「ですます形」			
第6回：作文練習、会話練習			
第7回：激音			
第8回：合成母音字			
第9回：濃音			
第10回：連音化			
第11回：疑問形と否定形			
第12回：平音の濃音化			
第13回：日本語のハングル表記			
第14回：激音化・鼻音化・口蓋音化			
第15回：子音語幹用言、発音変化、語尾			
第16回：作文練習、会話練習			
第17回：進行形と連体形			
第18回：固有数字とその単位			
第19回：過去形			
第20回：漢字語			
第21回：あいさつ、会話練習			
第22回：尊敬形			
第23回：作文練習、会話練習			

第 24 回：指定詞の否定形

第 25 回：用言の活用と語基

第 26 回：作文練習、会話練習

第 27 回：形容詞、否定形

第 28 回：動詞の名詞形、接続形語尾

第 29 回：命令形、意思形、作文練習、会話練習

第 30 回：復習とまとめ

テキスト

「できる韓国語 初級Ⅰ」（新大久保語学院、DEKIRU 出版）

「実用日韓・韓日辞典：ポケット版」木内明・金孝珍監修、成美堂出版）

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

平常点（60%、授業中の積極的参加態度、宿題・レポート等の提出）

小テスト（40%）

授業科目名： 教職コンピュータ基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐藤 万寿美、 西山 俊一、村井 実
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業の到達目標及びテーマ コンピュータを理解し、正しく使えるようになること。			
授業の概要 社会の情報化が進むなかで、教育現場においても情報化が進んでいる。また、生徒は情報化社会で育っており、教員よりも情報機器に慣れていることが多い。こうしたことを背景として、教育に携わるものにとって、最低限の知識と技術を身につけていることが重要になっている。この科目では、上記の目標を達成するために、情報機器の操作を身につけることが目的であるが、単に「操作できる」ことにとどまらず、コンピュータをきちんと理解して、それを活用するという「正しい使い方」を身につけることを目標とする。さらに、課題に用いる題材は、教育やコンピュータに関係したものであり、そこからは知識を身につけることになる。			
授業計画 第1回：コンピュータの基本操作とファイルの操作 第2回：文字を入力（ワープロ基本） 第3回：文書の整形 第4回：文書に図や表を挿入する 第5回：コンピュータの基本構造を理解する 第6回：表の作成 第7回：表の形を整える（マスの大きさ、罫線の設定） 第8回：グラフの作成 第9回：ワープロとの連携 第10回：プレゼンテーションの作成 第11回：スライドに動きをつける 第12回：インターネットの仕組みを理解する 第13回：ウェブページの作り方 第14回： マルチメディアの使い方 第15回： 情報発信の方法 定期試験			
テキスト 授業時にプリントを配付			

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

定期試験100%（課題と定期試験で総合評価）

授業科目名： 教育原論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：渋谷 亮 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ ・ 人間の成長や発達，教育の理念や思想など，教育学の基礎的な概念や枠組みを理解する。 ・ 教育をめぐるさまざまな事象に対して批判的に考察することを目指す。			
授業の概要 教育をめぐる動向がさまざまな変貌をとげ，教育をめぐるさまざまな言説が競合しているなかで，あらためて，教育について考えたい。子どもが「育つ」とときには，どんな風景がそこに広がっているのか。子どもが「学ぶ」学校とは，どのような場所なのか。そして，教育の思想は社会のあり方をどのように説明し，教育の歴史はどのように展開してきたのか。こうした問いを立てつつ，本講義では，教育の歴史や思想および今日的な状況を，子ども・学校・社会の三つの大きなテーマに配分して解説していく。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：教育学の基礎的な概念と枠組み 第3回：子ども観と家族①：子ども観の変遷 第4回：子ども観と家族②：家族と教育の関わり 第5回：学校と教育①：近代以前の教育思想（コメニウス、ロックなど） 第6回：学校と教育②：多様な学校教育と公教育の理念 第7回：学校と教育③：近代的学校の成立（ランカスター、ストウなど） 第8回：学校と教育④：近代的学校の展開と限界 第9回：学校の変容①：学校の効率化と児童中心主義（ボビット、ソーンダイク、エレンケイなど） 第10回：学校の変容②：社会と学校を組みなおす（デューイ） 第11回：学校の変容③：多様なカリキュラムの試みと自由の学校（アメリカの進歩主義、ニールなど） 第12回：教育をめぐる現状と課題①：社会の学校化と脱学校化 第13回：教育をめぐる現状と課題②：教育改革の歴史と限界 第14回：教育をめぐる現状と課題③：教育と学力 第15回：まとめ 定期試験			

テキスト

特定のテキストは用いず、毎講義時にプリント・資料を配布する。

参考書・参考資料等

今井康雄編『教育思想史』（有斐閣）

眞壁宏幹編『西洋教育思想史』（慶應義塾大学出版会）

これらの他にも参考文献を講義時に紹介する。

学生に対する評価

小レポート（30％） 定期試験（70％）

授業科目名： 教育原論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：渋谷 亮 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ ・人間の成長や発達，教育の理念や思想など，教育学の基礎的な概念や枠組みを理解する。 ・教育の歴史や思想についての理解を踏まえて，現代的な教育の課題を理解する。			
授業の概要 本講義では，学校が制度的に整備されてきた歴史的な背景や子どもを表象する仕方の変容，そして，家庭が教育の場所として機能し，家族が教育する役割を担ってきた歴史を説明する。さらに，近代以降の教育に関わるさまざまな思想や実践が展開されてきた歴史をたどり，学校の制度的な展開や教育の思想の歴史を理解したうえで，現代的な教育の課題を検討してゆく。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：教育という言葉を考える 第3回：教育の必要性 第4回：近代教育とヒューマニズム 第5回：教育の歴史①：教育思想の源流、古代ギリシアの教育 第6回：教育の歴史②：宗教と教育、中世の教育 第7回：教育の歴史③：子どもへの眼差しの変容、近代教育思想の萌芽（ロックなど） 第8回：近代の教育思想①：自然な教育（ルソー） 第9回：近代の教育思想②：革命期の教育、公教育の理念 第10回：近代の教育思想③：民衆の教育と家族の変容（ペスタロッチ） 第11回：近代の教育思想④：教育目的と教授法の確立（ヘルバルト） 第12回：関係から教育を読む①：遊びと教育（フレーベル、モンテッソーリなど） 第13回：関係から教育を読む②：共同性と学び（ドイツの新教育など） 第14回：関係から教育を読む③：今日の子ども、教育と福祉の現代 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 特定のテキストは用いず，毎講義時にプリント・資料を配布する。			

参考書・参考資料等

西平直『教育人間学のために』（東京大学出版会）
高橋勝『文化変容のなかの子ども』（東信堂）
原聰介ほか編『近代教育思想をよみなおす』（新曜社）
矢野智司『ソクラテスのダブルバインド』（世織書房）
これらの他にも参考文献を講義時に紹介する。

学生に対する評価

小レポート（30％） 定期試験（70％）

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：橋本（甲良）雅子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 【到達目標】 教職を目指す学生が、必要となる教養及び教師を目指すために必要な資質能力を理解し、教育への積極的な態度と教育実習等に向けた実践力を養うことを目標とする。 【テーマ】 教師という仕事は何か、教師に必要な実践力とは何か等教職の意義や役割を考える。			
授業の概要 教職についての基本事項（教職の意義、教員の役割、職務内容等）をおさえるとともに、これからの教師に求められる実践力について考えながら自らの教職観を形成し、教職への意欲を高める内容とする。			
授業計画 第1回：教職の意義 第2回：教員に必要な資質と能力 第3回：教員の身分と服務 第4回：教員研修の意義 第5回：学習指導要領と教育課程 第6回：教員の職務（1）学習指導と評価 第7回：教員の職務（2）学級担任と学級経営 第8回：教員の職務（3）生徒理解と生徒指導 第9回：教員の職務（4）キャリア教育と進路指導 第10回：教員の職務（5）特別支援教育 第11回：教員の職務（6）保護者・地域との連携 第12回：教職の今日的課題① 特別活動と部活動 第13回：教職の今日的課題② カリキュラムマネジメント 第14回：教職の今日的課題③ 学校組織とチーム学校 第15回：教職の今日的課題④ 学校の危機管理 定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 『現代社会と教育の構造変容』（西川信廣・山本智也編、ナカニシヤ出版）			

『チーム学校に求められる教師の役割・職務とは何か』（石村卓也・伊藤朋子著、晃洋書房）

学生に対する評価

1. 平常点 30%（授業への意欲的な参加と積極的な態度）
2. 課題レポートの評価 20%
3. 定期試験 50%

1～3 を原則として、総合的に評価する。

授業科目名： 学校教育社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：佐藤貴宣
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 学校教育の構造・機能・意味を社会学的に読み解くこと。			
授業の概要 学校文化・組織の社会学及び学校教育の諸問題等について講義内容を編成することで、上述の目標を達成することができるようにしたい。			
授業計画 第1回：学校教育とはなにか 第2回：公教育の原理と理念 第3回：教師の仕事の構造と性質 第4回：学校の生態学 第5回：顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム(児童生徒の社会化) 第6回：学校経営マネジメントと学校評価 第7回：地域との連携・協働による学校（開かれた学校） 第8回：学校危機管理（学校安全への対応） 第9回：学校教育の諸問題1-いじめ「問題」の生態学1（三層構造、四層構造ほか） 第10回：学校教育の諸問題2-いじめ「問題」の生態学2（会話分析的アプローチほか） 第11回：学校教育の諸問題3-不登校「問題」（プライベートスペース理論ほか） 第12回：学校教育の諸問題4-子どもの貧困（地域校種間連携を中心に） 第13回：近年の教育施策と教育制度を巡る諸問題 第14回：諸外国の事情と対応 第15回：学校教育の諸問題-振り返りと課題討論 定期試験			
テキスト 毎回授業時に図書、学術論文、データ資料等を紹介する。			

参考書・参考資料等

『教育の臨床エスノメソドロジー研究-保健室の構造・機能・意味』（秋葉昌樹2004、東洋館出版社）

『いじめ-教室の病い』（森田洋司・清永賢二1986、金子書房）

学生に対する評価

小試験（40％）

定期試験(60％)

授業科目名： 学習・発達論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：東山 薫
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ			
・ 発達に関する基礎概念やこれまでの発達心理学を支えてきた理論や各論に至る背景を理解する。 ・ 乳幼児から児童期の終わりまでの上昇過程の変化を理解する。 ・ 青年期における自我同一性の獲得について理解する。 ・ 乳幼児期から幼児期に生じる発達に関わる問題について理解する。 ・ これらの発達を踏まえ、幼児、児童、生徒の学習過程や動機づけについて理解する。			
授業の概要			
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方について講義をする。学習 ・ 発達論Aでは特に幼児、児童及び生徒の心身の発達過程に重点を置き、ピアジェの認知発達理論、エリクソンの心理社会的発達理論を基礎に、胎生期から青年期までの発達を扱う。また、それぞれの発達段階の特徴を踏まえた上で、学校生活に代表される集団生活や教育評価、学習の過程について講義すると共に、就学以前に生じる発達に関わる問題についても扱う。			
授業計画			
第1回：イントロダクション 生涯発達心理学の基礎			
第2回：発達(1)：ピアジェによる認知発達理論・エリクソンの漸成発達理論			
第3回：発達(2)：胎生期から幼児期（成熟説・発達の最近接領域・運動・社会性・記憶・言語）			
第4回：発達(3)：児童期（知能・学習・メタ認知）			
第5回：発達(4)：青年期の特徴と自我同一性の獲得			
第6回：学級(1)：学校生活・対人関係			
第7回：学級(2)：教師と生徒の人間関係・生徒同士の人間関係			
第8回：教育評価：評価方法・ピグマリオン効果・ハロー効果・中心化傾向			
第9回：特別支援教育：乳児期から幼児期に生じる発達に関わる問題			
第10回：学習(1)：古典的条件づけ・オペラント条件づけ・認知説			
第11回：学習(2)：観察学習・自己効力感・自己決定理論			
第12回：学習(3)：発見学習・有意味受容学習・協同学習・個に応じた教育			
第13回：動機づけ(1)：動機づけ・原因帰属・学習性無力感			

第14回：動機づけ(2)：内発的動機づけ・外発的動機づけ・アンダーマイニング効果・エンハンシング効果

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

滝沢武久編著『はじめての教育心理学』（八千代出版）

内藤佳津雄・北村世都・鏡直子編著『発達と学習（Next教科書シリーズ）』（弘文堂）

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

平常点（30%）

定期試験（70%）

授業科目名： 学習・発達論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：東山 薫
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ			
・教育心理学の基礎的事実や法則など，基本となる内容を教育実践と関連づけて理解する。 ・教育心理学の新しい話題や知識について理解する。 ・教育実践に生きる知識，技能，理論について理解する。			
授業の概要			
幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について，基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方について講義をする。学習・発達論Bでは特に幼児，児童及び生徒の学習の過程に重点を置き，学習のしくみや記憶の特徴，メタ認知，学習方略，動機づけなどと共に，授業の過程や学級集団の特徴，教育評価や教育統計について講義する。			
授業計画			
第1回：イントロダクション 教育心理学とは			
第2回：発達の原理・原則 発達と教育			
第3回：乳幼児期と児童期の発達			
第4回：青年期以降の発達 フロイトの人格構造論 コールバーグの道徳理論			
第5回：学習のしくみ 古典的条件づけ オペラント条件づけ 認知説			
第6回：記憶 記憶の過程 記憶の二重貯蔵モデル ワーキングメモリ			
第7回：メタ認知と学習方略			
第8回：動機づけ 内発的動機づけと外発的動機づけ 動機づけの諸理論			
第9回：授業の過程 発見学習 有意味受容学習 協同学習 個に応じた教育			
第10回：知能の創造性			
第11回：発達障害			
第12回：学級集団 リーダーシップ 教師の適性			
第13回：教育評価			
第14回：教育統計			
第15回：まとめ			
定期試験			

テキスト

『発達と教育の心理学』（三浦正樹編著、八千代出版）

『キーワード教育心理学』（永江誠司編著、北大路書房）

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

平常点：(30%)

定期試験：(70%)

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：中瀬 浩一
特別支援教育概論	必修科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ			
【到達目標】			
①特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について理解する。			
②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育的ニーズに対する必要な知識や支援方法を理解する。			
【テーマ】			
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解と支援について			
授業の概要			
障がいのある子どもや障がいはないが特別の教育的ニーズのある子どもたちが、学校現場にたくさんいます。大学入学までの間、このような人たちと出会ったり、共に何か活動をしたことのある人は多くありません。これからの学校教員は、様々な環境や考え方で育ってきた子どもたちへの理解や対応など、自らの育ちとは異なる人たちへの理解が不可欠となっています。 本講義は、特別の支援が必要とされる人たちの生活やコミュニケーション、かかわり方などの学習をとおして、教師として必要な知識の理解を図ります。			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション			
第 2 回：学校現場の現状			
第 3 回：障がいはないが特別の教育的ニーズのある子どもの理解			
第 4 回：ICF（国際生活機能分類）の理解と活用			
第 5 回：「障がい」を考える（1）見え方に困難のある子ども（視覚障がい）			
第 6 回：「障がい」を考える（2）学習障がい			
第 7 回：見え方・きこえ方・感じ方をとらえなおす（自閉スペクトラム症）			
第 8 回：理解すること（ADHD）			
第 9 回：特別支援学校・学級・通級による指導（知的障がい）			
第 1 0 回：バリアフリー・ユニバーサルデザインについて（肢体不自由）			
第 1 1 回：障がい理解授業・福祉授業を考える（聴覚障がい）			
第 1 2 回：事例から支援を考える			

第13回：教育・医療・福祉・行政の連携（病弱・身体虚弱）

第14回：保護者理解

第15回：学習内容の振り返り

テキスト

「特別のニーズのある子どもの教育」井上智義、中瀬浩一（樹村房）

参考書・参考資料等

文部科学省「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」

学生に対する評価

・平常点（グループ作業の成果など）30%

授業ごとの小レポート60%

期末レポート10%

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大西俊弘、中本和彦 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
1 学校における教育課程の役割・機能を理解し、学習指導要領との関係について理解する。			
2 教育課程編成の手順を理解し、学習評価との関係について理解する。			
3 教科や学年を越えて学校全体のカリキュラムを把握し、マネジメントすることの意義を理解する。			
授業の概要			
1 学校における教育課程の意義について学び、教科活動や特別活動との関係を明確にする。			
2 学習指導要領の変遷と改訂当時の社会的背景について学ぶ。			
3 教育課程編成の基本原則について学び、中学校・高等学校での具体的編成について学ぶ。			
4 学校全体を見渡してカリキュラムを編成し、新しい教育課題に取り組む視点を養う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション・教育課程とは何か			
第2回：教育課程と各教科の授業の関係			
第3回：教育課程と特別活動との関係			
第4回：教育課程と学習評価			
第5回：教育課程の歴史 近代から現代に至る教育課程を概観			
第6回：教育課程と学習指導要領（1） 学習指導要領の変遷 昭和20～30年代			
第7回：教育課程と学習指導要領（2） 学習指導要領の変遷 昭和40～60年代			
第8回：教育課程と学習指導要領（3） 学習指導要領の変遷 平成元年～現行			
第9回：教育課程の編成（1）・教育課程編成の基本的な考え方と手順			
第10回：教育課程の編成（2）・教育課程編成の実例（中学校）			
第11回：教育課程の編成（3）・教育課程編成の実例（高等学校）			
第12回：カリキュラム・マネジメントの意義と目的			
第13回：カリキュラム・マネジメントの実例			
第14回：教育改革と教育課程上の課題			
第15回：まとめ・新しい時代の学びに必要な教育課程			
定期試験			

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示, 文部科学省）

『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示, 文部科学省）

『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)解説 総則編』（平成29年7月, 文部科学省）

『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)解説 総則編』（平成30年7月, 文部科学省）

『新しい時代の教育課程 第3版』（田中耕治・他3名著、有斐閣アルマ）

学生に対する評価

- ・ 平常点 （10％）講義の途中・最後で記入する小レポートで評価する
- ・ レポート（10％）
- ・ 定期試験（80％）

授業科目名： 総合的な学習の時間・特別活動論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：橋本（甲良）雅子 札埜 和男
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 特別活動の指導法 ・ 総合的な学習の時間の指導法		
授業の到達目標及びテーマ			
【到達目標】			
・ 特別活動ならびに総合的な学習の意義や目標を理解し、その特質を理解した上で指導計画の作成および具体的な指導の在り方を身に付ける。			
・ 特別活動ならびに総合的な学習の時間の指導と評価の在り方及び留意点を理解する。			
【テーマ】			
特別活動ならびに総合的な学習の時間で身につける資質・能力を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、社会に開かれた教育課程の編成により生きる力を育む授業の実現を目指す。			
授業の概要			
特別活動ならびに総合的な学習の時間は各教科教育や道徳教育、家庭・地域や関係機関と相互に関連して営まれている。本講義では、特別活動ならびに総合的な学習の意義を理解し、指導計画の作成や指導の在り方を学ぶ。具体的には、特別活動における現状と課題について考察し、学級活動・生徒会活動・学校行事の特質を理解し、教育課程全体で取り組む指導の在り方を理解する。また、総合的な学習については、総合的な学習で培う資質・能力を理解し、実践する上での留意点や探求型の学習指導法を学び、総合的な学習の時間のあり方について考察する。事例等を紹介しながら、グループごとに課題に応じた様々な活動計画を作成し、グループ内でのディスカッションを通して指導に必要な資質・能力を養う。			
授業計画			
第1回：特別活動・総合的な学習とキャリア教育			
第2回：特別活動の目標・内容			
第3回：特別活動の特質を踏まえた教育課程			
第4回：集団活動の意義 一話し合い活動一			
第5回：学級・ホームルーム活動の指導計画と工夫 一学級経営方針一			
第6回：生徒会活動・クラブ活動の指導計画と工夫			
第7回：学校行事の指導計画と工夫			
第8回：特別活動・総合学習における家庭・地域住民や関係機関との連携			
第9回：特別活動における評価の方法及びその留意点			

第10回：総合的な学習の目標・意義 第11回：教科を越えて必要となる資質・能力の育成 第12回：主体的・対話的で深い学びを実現する総合的な学習 第13回：事例紹介—総合的な学習の指導上の留意点— 第14回：総合的な学習のカリキュラム・マネジメント 第15回：総合的な学習の時間における評価の方法及びその留意点 定期試験
テキスト 『中学校学指導要領』（平成29年7月 文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年7月 文部科学省） 『中学校学指導要領解説—特別活動編—』（平成29年7月 文部科学省） 『中学校学指導要領解説—総合的な学習の時間編—』（平成29年7月 文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説—特別活動編—』（平成30年7月告示 文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説—総合的な探究の時間編—』（平成30年7月告示 文部科学省）
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 ・課題について評価(40%) 適宜、課題を与えパフォーマンス評価する ・試験(60%)

授業科目名： 教育の方法と技術 (ICT 活用含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：大西 俊弘、 神月 紀輔
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 教育の方法及び技術 ・ 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
＜到達目標＞ ・ 各教科の授業や総合学習において、適切な授業の設計ができる。 ・ 必要に応じてICTを活用した授業を計画することができる。 ＜テーマ＞ ・ 授業設計に関する理論や具体的な方法について学び、生徒の実態に応じて適切な授業を設計し、実践する能力を育成する。 ・ メディアやICT機器を活用した教育方法について学び、教員としての教材開発力を高めるとともに、ICTを活用した指導力を育成する。			
授業の概要			
学習とは何か、授業とは何かという基本的な概念から始めて、効果的な授業を設計する理論と具体的な方法について講義する。次に、ICTを活用した教育方法について講義する。 主な講義内容は以下のとおりである。 (1) 学習・教授理論の基礎を学び、それらを活かして授業を設計する方法について学ぶ。 (2) 各種メディアやICT機器の特性について考察し、授業での活用方法について学ぶ。 (3) 教育におけるメディア・リテラシーの重要性について学ぶ。 (4) 教育用デジタルコンテンツ作成の理論や技法について学び、実習を行う。 (5) オンライン・遠隔授業の理論や技法について学び、実習を行う。 (6) 教育現場で著作権に配慮することの重要性について学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、学習・教授理論の基礎			
第2回：授業設計1（教育目標の具体化）			
第3回：授業設計2（指導計画立案の基礎）			
第4回：授業設計3（主体的・対話的で深い学びを目指した指導計画の立案）			
第5回：授業設計4（板書・発問の工夫）			
第6回：授業設計5（教材開発の実際）			

第7回：授業設計6（教育評価の実際）

第8回：授業分析の実際（ICTを活用した授業実践記録の分析）

第9回：校務の情報化とデータの活用

第10回：学校教育におけるICT機器の利用方法（デジタル教科書・電子黒板等）

第11回：教育用デジタルコンテンツ開発1（理論的・技術的な解説）

第12回：教育用デジタルコンテンツ開発2（制作実習）

第13回：オンライン・遠隔授業1（理論的・技術的な解説）

第14回：オンライン・遠隔授業2（模擬授業・実習）

第15回：学校教育と著作権（著作権・肖像権等）

定期試験

テキスト

特になし（毎回、資料を配付する。）

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）

『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示 文部科学省）

『教育の方法と技術』（平沢 茂著、図書文化社）

『新しい時代の教育方法』（田中耕治・他3名著、有斐閣アルマ）

『授業設計マニュアルVer.2：教師のためのインストラクショナルデザイン』（稲垣忠・鈴木克明著、北大路書房）

『ICT活用の理論と実践』（稲垣忠・佐藤和紀著、北大路書房）

『上手な教え方の教科書 ～ 入門インストラクショナルデザイン』（向後千春、技術評論社）

『いちばんやさしい教える技術』（向後千春、永岡書店）

『教師のための「教える技術」』（向後千春、明治図書出版）

学生に対する評価

レポート（10％）

定期試験（90％）

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉田（大原） 卓司
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
【到達目標】 以下の3点を到達目標として設定する。 ・ 生徒指導・進路指導の意義や基本的理論を理解する。 ・ 生徒指導・進路指導に関する具体的課題を理解する。 ・ すべての生徒を対象とした生徒指導・進路指導に関する具体的方法を実践できる基礎的な力を獲得する。			
【テーマ】 本授業では、生徒指導・進路指導の意義、内容、方法および課題について学び、実践に必要な資質の育成と能力の獲得をテーマとする。			
授業の概要			
今日、急激な社会の変動を受けて子どもたちの世界は大きく変化し、いじめ、暴力行為、不登校、インターネットに関する課題など多くの教育問題が発生している。この授業では生徒指導の意義のもと、基本的理論をもとにその内容・方法を理解した上で、これらの教育問題の現状と背景・原因を考察する。さらに、進路指導・キャリア教育、教育相談などの視点もふまえながら、教育問題の克服と解決および基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成に必要とされる教師の具体的指導法を検討する。なお授業は、発問・作業を適宜用いた講義形式で行う。			
授業計画			
第1回 生徒指導の意義・原理（学校教育・教育課程上の位置づけについて）			
第2回 生徒指導の内容（教科及び特別活動等教育活動全体で展開されている内容について）			
第3回 生徒指導の方法（集団指導と個別指導などに関する理論と実際）			
第4回 生徒指導の現状（懲戒の定義・意義・機能・分類、その法的位置づけについて）			
第5回 生徒指導の課題（1）懲戒と体罰の定義・禁止、出席停止の定義・法的位置づけなど			
第6回 生徒指導の課題（2）薬物乱用、児童虐待、インターネットや性に関する問題行動			
第7回 「いじめ」の解説（定義、類型、現状、国内外の現状について）			
第8回 いじめに対する指導（原因及び背景、現状の検討、教師の基本的対応方法について）			
第9回 暴力行為とその指導（その定義、類型、現状、発生の要因、対応について）			
第10回 不登校の解説と対応（その定義、類型、現状、発生の要、対応について）			

第11回生徒指導法の総括、
 第12回進路指導・キャリア教育の意義と原理（学校教育・教育課程における位置づけ）
 第13回ガイダンス/カウンセリングとしての進路指導（組織と体制・関係機関との連携）
 第14回進路指導の理論と実践
 第15回進路指導法の総括、講義全体の総括
 定期試験

テキスト

文部科学省『生徒指導提要』 教育図書 2010年
 吉田卓司『教育実践基礎論』 三学出版 2017年

参考書・参考資料等

吉田卓司『生徒指導法の実践研究』 三学出版 2008年
 その他授業時に適宜、紹介・指摘する。

学生に対する評価

定期試験 50%
 提出課題(授業レポート) 30%
 授業(ワーク)参加態度 20%

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：赤津玲子 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
・学校における教育相談の意義と理論を理解する。 ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組や連携の必要性を理解する。 ・教育活動における心理的・カウンセリング的知識を理解する。 ・学校現場における教師としての基礎的態度、その対応を行うことができる。 ・困難な事例に対する対応においてスクールカウンセラーの役割を理解し、それらと関連する組織などと連携することができる。			
授業の概要			
学校現場では保護者対応や不登校、いじめなど心の問題を1つの要因とする様々な事象が発生している。スクールカウンセラーが学校に配置されるようになった今日、教師自身も心理学カウンセリング的素養が必要である。なぜなら現在の児童・生徒や保護者に対する教育には、教師の人間性に豊かさや、柔軟な姿勢、援助法を身につけておかなければ、学校で起こる様々な問題に対応できない。その際、心理的な援助を行うための知識が必須であり、さらにカウンセリング的対応の経験を積み重ねることが必要である。また、教師として、教師間の連携や他職種や他機関との連携を行うためには、スクールカウンセラーとの連携のあり方や、そのカウンセリングの考え方を理解することが必要である。 そこで、講義では、教育活動における心理的・カウンセリング的な基礎的態度と具体的な対応のあり方および教育相談の意義・理論や具体的な進め方・連携の必要性について理解を深めていきたい。			
授業計画			
第1回：教育相談の必要性			
第2回：教育相談の基本的理解			
第3回：学校における教育相談			
第4回：カウンセリングと教育			
第5回：カウンセリングの種類			
第6回：カウンセリングの基礎			
第7回：生徒のサインへの気づき			
第8回：『不登校状態』にある生徒の基本的理解			
第9回：『いじめ』の基本的理解			
第10回：『不適応状態』を示す生徒の基本的理解			
第11回：学校で起こるさまざまな問題への対処			

第12回：学校カウンセリングと家族
第13回：教師とスクールカウンセラー
第14回：学校における教育相談の組織的取り組み
第15回：他機関との連携
定期試験

テキスト

『学校カウンセリング入門』友久久雄編著 ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

『学校カウンセリングの理論と実践』友久久雄編著 ミネルヴァ書房

学生に対する評価

平常点（40%）：授業態度と授業後の小レポート

定期試験（60%）

※場合によって、理解を深めるための小レポートを授業後に提出を求める。よって平常点にそのレポートの評価も含める。

シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習（中・高）		単位数：2 単位	担当教員名：【各教員が1クラス15回を担当】 中本 和彦、長嶺 寿宣、札幌 和男、 橋本（甲良）雅子		
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握（※1）	○	学校現場の意見聴取（※2）	○
受講者数 25名程度					
教員の連携・協力体制 本学では、各学部の専門性を活かしつつ、教職センターを中心として全学的な理解に基づいて教職課程を運営している。各学部に所属する教職担当教員と教科に関する科目の担当教員は、学生指導の相互理解や個別課題への適切な対応を図るために、定期的に面談・会議などを開催し、連携・協力を深めている。 本学の教職課程担当教員は、中学校・高等学校・教育委員会等で20年以上の勤務経験を有し、日頃から学校現場や教育委員会等との連携・協力を密にしながら、学生の指導にあたっている。本授業においては、直接的な授業担当教員の他に、学内の科目担当者、学内外の協力者（教育委員会の指導主事・教育センター研究主事・現職管理職及び現職教員等）を講師として招き、本授業の円滑な指導体制を構築している。 「教職に関する科目」や「教科に関する科目」の担当教員には、本授業の教科指導・生徒指導・特別支援教育などの領域に関わって、適宜協力を依頼している。また、4年次前期までの平常の授業において特記すべき事項がある場合には、「教職カルテ（履修カルテ）」に特記事項などの記載を求め、本授業での指導に役立てている。					
授業のテーマ及び到達目標 <授業のテーマ> 本科目の趣旨を踏まえ、教員として求められる次の4つの事項を中心に展開する。 ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 ②社会性や対人関係能力に関する事項 ③生徒理解や学級経営等に関する事項 ④教科内容等の指導力に関する事項 <到達目標> 将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等（デジタル教材やICT機器の活用等の現代的な課題を含む）を補い、その定着を図ることにより、教職生活を円滑にスタートできるようになる。					
授業の概要 本授業は、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終的に確認するものであり、全学年を通じた教職課程の総仕上げとして位置付けられる科目である。この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待される。 授業では、低年次から書きためてきた教職カルテ（履修カルテ）を閲覧しながら今までの学びを振り返ることから始め、教育実習での学びについても共有することから始める。					

次に、上記授業テーマで触れた①～④の4つの事項に関する講義・研究協議等を行う。具体的には、実践場面を想定した課題に基づいて学生自らが事例研究・グループ討議・ロールプレイング等を行い、自らの教員としての資質能力を確認するようにする。また、現職教員等を招いて講演会を開催し、教職に対する自覚・省察を深めるとともに、デジタル教材やICT機器の活用など今日的な課題にも取り組む。

授業計画

第1回 オリエンテーション（授業のねらい・授業計画の説明）

＜教職カルテ（履修カルテ）を用いてこれまでの学習を振り返り・課題分析＞

第2回 教職の意義及び教員の役割 ＜教育関係者による講演・質疑応答、グループ討議＞

第3回 子どもの変化と子どもの理解 ＜教育関係者による講演・質疑応答、グループ討議＞

第4回 教育実習の振り返り ＜小グループでの発表・討議＞

第5回 学校における服務規律 ＜講義、ロールプレイング、グループ討議＞

第6回 学校における地域社会・保護者への対応

＜講義、ロールプレイング、グループ討議＞

第7回 ICT機器を活用した教科指導力の向上 ＜ICT機器の活用に関する解説と実習＞

第8回 授業設計及び評価 ＜学習授業案の作成、評価計画の立案＞

第9回 教科指導力の向上① ＜（板書中心の）模擬授業、相互批評＞

第10回 教科指導力の向上② ＜（デジタル教材やICT機器を活用した）模擬授業、相互批評＞

第11回 生徒指導について ＜講義、グループ討議＞

第12回 生徒指導に関する事例研究 ＜ロールプレイング、グループ討議＞

第13回 学級経営について ＜講義、グループ討議＞

第14回 学級経営に関する事例研究 ＜ロールプレイング、グループ討議＞

第15回 まとめ ＜本授業の総括・反省を踏まえて、教職カルテ（履修カルテ）の記入＞

定期試験等（定期試験は実施せず、小論文やレポート等の課題を課す。）

テキスト

『教職実践演習Note』（龍谷大学教職センター編）

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領解説（総則編）＜平成29年告示＞

高等学校学習指導要領解説（総則編）＜平成30年告示＞

その他、教科指導関係の資料は授業中に適宜紹介を行う。

学生に対する評価

各テーマに対する小論文や研究レポート（70%）

模擬授業等の実技演習やグループ討議・研究協議等への参加状況・貢献度（30%）

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。